

● 発刊にあたって ●

わたしたちは、平成11年6月児童委員活動強化のために「児童委員活動専門部会」を確立し、全ての法定民児協に「専門部会」の体制をつくり、佐川町での先進的な取り組みに学び、全ての市町村に「こども支援ネットワーク」をと訴えてまいりました。

また全県的な児童委員活動強化のために「第1回高知県民生委員児童委員大会」を開催し、児童委員活動の遅れた県からの脱皮を目指してまいりました。

この取り組みの中で、特に全ての市町村での「こども支援ネットワーク」づくり活動では、関係機関との連携を強化し、中心的な役割を果たすことが出来ました。このことは、児童虐待防止をはじめとする課題解決のための「要保護児童対策地域協議会」を全市町村で組織するうえで、大きな役割を果たせたと確信するものです。

また本大会には、第5回大会以来、必ず知事様をご出席くださると共に、県下6ブロックでの全員研修会にも知事様、教育長様をご出席のうえ、ご指導、ご助言をいただくことに加え、子育て、教育、地域福祉をテーマに、知事様、教育長様、県社協会長様をはじめとする関係者と県民児連役員との情報交換会が定例的に開催されています。この教訓を発展させる立場から、昨年秋以来、市町村長様と民児協での「地域福祉」をテーマとした情報交換会の開催をお願いし、大きな成果が報告されています。

民生委員制度創設90周年記念事業として取り組んだ高知県、民間事業所、県民児連三者の県域での「人地域見守り協定」は、本年1月JA高知さんとの締結で6事業所となり、人との絆、連携を通じて、誰もが安心して住み続けられる「ともに支え合う住民活動の仕組みづくり」を進めるうえで大きな役割を果たしています。

今後とも、協力事業者を増やす取り組みとともに、ブロック協議会、市町村法定民児協での協定や協力を通じて委員さん一人ひとりの、担当地区や部署での支え合う住民力を引き出す「地域福祉」のコーディネーターの役割が求められています。

本会が10回という節目の大会であることから、県下全ての法定民児協の日常活動の自慢の活動集を発行し、県下約2,500名全委員に届けることとしました。是非、目を通してくださり、日々の地域活動の活性化の糧とされることを期待し、ご挨拶といたします。

平成22年5月12日

高知県民生委員児童委員協議会連合会

会長 小椋 茂昭

目次

室戸市 ● 民生委員児童委員協議会 4	高知市 ● 旭地区民生委員児童委員協議会 24
子どもとのふれあい活動	あさひのような温かい優しい地域づくり
安芸市 ● 民生児童委員協議会 5	高知市 ● 上街民生委員児童委員協議会 25
放課後学習児童のサポート活動	来年は良い年でありますように!!
奈半利町 ● 民生児童委員協議会 6	高知市 ● 小高坂地区民生委員児童委員協議会 26
愛のもちつき活動	八反町あすなる会百歳体操の紹介
田野町 ● 民生児童委員協議会 7	高知市 ● 江ノ口東地区民生委員児童委員協議会 27
ひとり暮らし高齢者訪問活動	敬老会 ふれあいバスツアー
安田町 ● 民生児童委員協議会 8	高知市 ● 江ノ口西地区民生委員児童委員協議会 28
独居高齢者愛の激励	誰もが通る道 ～年を重ねるすばらしさ～
北川村 ● 民生児童委員協議会 9	高知市 ● 潮江地区民生委員児童委員協議会 29
地域で子どもたちを応援しています	みんなの居場所(いきいきサロン)
馬路村 ● 民生児童委員協議会 10	高知市 ● 南街地区民生委員児童委員協議会 30
ふくしふれあいもちつきの取り組み	いきいき100歳体操
芸西村 ● 民生委員児童委員協議会 11	子育てサロン“さくら”・配食サービス
子育て支援	高知市 ● 北街地区民生委員児童委員協議会 31
南国市 ● 民生児童委員協議会 12	新堀小学校図書室での見守り活動
南海・東南海地震に備えて	高知市 ● 下知地区民生委員児童委員協議会 32
香美市 ● 土佐山田町民生児童委員協議会 13	地区独自の緊急小口資金の貸出し
認知症の相談所開設とその活動	高知市 ● 朝倉地区民生委員児童委員協議会 33
香美市 ● 香北町民生委員児童委員協議会 14	朝倉民児協移動定例会
地域の宝 子ども達とのふれあい活動	高知市 ● 鴨田地区民生委員児童委員協議会 34
香美市 ● 物部町民生児童委員協議会 15	一人暮らしのお年寄りにお弁当を届けて21年
地域の状況把握と訪問活動	高知市 ● 長浜地区民生委員児童委員協議会 35
香南市 ● 吉川町民生児童委員協議会 16	広報活動啓発の推進 中学生の施設訪問交流
ワカバ会の集い(浜口地区のミニサロン)	高知市 ● 御豊瀬地区民生委員児童委員協議会 36
香南市 ● 野市町民生委員児童委員協議会 17	地域の独居、寝たきり高齢者訪問事業
笑顔で交わす「おはよう」の朝:朝のあいさつ運動	高知市 ● 浦戸地区民生委員児童委員協議会 37
香南市 ● 夜須町民生委員児童委員協議会 18	高齢者と小学生ふれあい事業
幼稚園児との七夕祭り	高知市 ● 三里地区民生委員児童委員協議会 38
香南市 ● 香我美町民生児童委員協議会 19	施設ボランティア活動 シーツ交換
あのね広場における子育て支援活動	高知市 ● 五台山地区民生委員児童委員協議会 39
香南市 ● 香南市赤岡町民生児童委員協議会 20	独居老人への年末のふれあい活動について
安心・安全・美しいまちづくりの推進	高知市 ● 高須地区民生委員児童委員協議会 40
本山町 ● 民生委員児童委員協議会 21	高知市高須ふれあいセンター育児サークル
防災マップ 見守り台帳づくり	高知市 ● 一宮地区民生委員児童委員協議会 41
土佐町 ● 民生委員児童委員協議会 22	小学校の朝の挨拶運動に参加して
ここで住んでよかったと言える町づくり	高知市 ● 布師田地区民生委員児童委員協議会 42
大川村 ● 民生委員児童委員協議会 23	要援護者台帳 整備
お節料理	高知市 ● 秦地地区民生委員児童委員協議会 43
	ホットランド秦の開催

高知市 ● 初月地区民生委員児童委員協議会	44	梶原町 ● 民生委員児童委員協議会	64
子育てサロン「そら」		夏期、冬季「ふれあい訪問」	
高知市 ● 大津地区民生委員児童委員協議会	45	津野町 ● 民生委員児童委員協議会	65
共に支えあうまちづくり応援団		住民と一体となった「福祉パトロール」	
高知市 ● 介良地区民生委員児童委員協議会	46	四万十市 ● 中村地区民生委員児童委員協議会	66
昔遊びを楽しむ		民児協だより「やぶつばき」の発行 ～心のつながりを求めて	
高知市 ● 鏡地区民生委員児童委員協議会	47	四万十市 ● 西土佐地区民生児童委員協議会	67
地域のあったかふれあいサロンの開催		訪問サービスで地域の見守り	
高知市 ● 春野地区民生委員児童委員協議会	48	宿毛市 ● 民生児童委員協議会	68
愛の一声運動		ひとり暮らし高齢者「ふれあいの集い」	
土佐市 ● 民生児童委員協議会	49	土佐清水市 ● 民生委員児童委員協議会	69
子育てについての交流会および講演会		地域の子供を守ろう！	
いの町 ● 伊野地区民生委員児童委員協議会	50	黒潮町 ● 大方地区民生児童委員協議会	70
子育て支援事業 「エンゼル訪問」		ひとり暮らし高齢者への見守り・声かけ配食便	
いの町 ● 吾北地区民生委員児童委員協議会	51	黒潮町 ● 佐賀地区民生児童委員協議会	71
特養の農園整備と野菜づくりボランティア		独り暮らし見守り活動(旧正月配食行事)	
いの町 ● 本川地区民生委員児童委員協議会	52	大月町 ● 民生児童委員協議会	72
一人暮らし高齢者等や子供の見守り活動		町の困りごと/お助けマン	
仁淀川町 ● 民生委員児童委員協議会	53	三原村 ● 民生児童委員協議会	73
歳末たすけあい配分事業「赤飯配り」		安全・安心の村づくり活動	
佐川町 ● 民生児童委員協議会	54	第1回高知県民生委員児童委員大会開催要綱	76
福祉懇談会と見守りネットワーク		～児童委員活動強化のために～	
越知町 ● 民生委員児童委員協議会	55	第2回高知県民生委員児童委員大会開催要綱	77
災害時要援護者の支援活動		～民生委員児童委員活動強化のために～	
日高村 ● 民生児童委員協議会	56	第3回高知県民生委員児童委員大会開催要綱	78
小地域ネットワーク活動		～保健・教育との連携強化による 民生委員児童委員活動のよりよい展開を目指して～	
須崎市 ● 民生委員児童委員協議会	57	第5回高知県民生委員児童委員大会開催要綱	79
徘徊ネットワーク模擬訓練		～民生委員児童委員活動充実のために～	
須崎市 ● 民生委員児童委員協議会	58	第6回高知県民生委員児童委員大会開催要綱	80
通学学習「かわうそ未来塾」		～民生委員児童委員活動充実のために～	
中土佐町 ● 中土佐地区民生委員協議会	59	第7回高知県民生委員児童委員大会開催要綱	81
中土佐町の見守り体制について		～民生委員児童委員活動充実のために～	
中土佐町 ● 大野見地区民生委員協議会	60	第8回高知県民生委員児童委員大会開催要綱	82
さけなし日		～民生委員児童委員活動充実のために～	
四万十町 ● 窪川地区民生児童委員協議会	61	第9回高知県民生委員児童委員大会開催要綱	83
七里小あったか推進委員会(めだかの会)		～民生委員児童委員活動充実のために～	
四万十町 ● 大正地区民生児童委員協議会	62	第10回高知県民生委員児童委員大会開催要綱	84
先輩から引き継いで			
四万十町 ● 十和地区民生児童委員協議会	63		
夜間パトロール			

子どものふれあい活動

主催団体 ● 室戸市民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

室戸市民児協では、主任児童委員を中心に子ども育成部会を設置しています。

子どもとふれあう機会を多く設けるために平成16年より「室戸の子交流大会」を始めました。

大会を通じて主任児童委員や地区担当民生委員との保育・学校等との連携を行い、子ども達に民生委員の顔を知ってもらうことで両親とのつながりも深めます。



❖ 活動内容

● 部 会

- ・ 高齢者支援部会・地域福祉部会・子ども育成部会（主任児童委員5名を含む。部長は主任児童委員の代表）

● 事 業

- ・ 年度末に各部会で事業や予算の計画をたて、実施に当たってはそれぞれの部会が主導権を持ちながら市内の委員全体の活動として取り組んでいる。

● 年間の主な特徴事業

- ・ 室戸の子交流大会

国立室戸青少年の家で夏休みの期間中の一日を委員が市内数多くの子ども達とのふれあいの場として、工作等を含めた生活指導を視野としたプログラムを組み実施している。近年子ども達の期待する事業として定着している。

- ・ 青色回転灯車両による地区タウンポリス活動

5地区に25器の青色回転灯を配備し、各委員の自家用車に装着して市内を巡回し、子ども達の登下校時の見回りを通して地域の防犯及び交通安全等を呼びかけている。

- ・ 演劇活動

市内の子ども達の情操教育と一般には社会を風刺した創作劇を上演。平成18年の創作劇「姥捨」を皮切りに毎年演目を変えて公演している。



放 課後学習児童のサポート活動

主催団体 ● 安芸市民生児童委員協議会

協力団体 ● 小学校

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

安芸地区民児協は、市内の中心地の民生委員児童委員で組織し、安芸東地区10名、安芸西地区9名、安芸中地区8名、計27名の委員が活動しています。

児童委員活動の強化推進が掲げられる中で、市児童委員専門部会においても、学校との連携を図っていくことを目的に、地区民児協単位で、教職員との懇談会や意見交換会、開かれた学校づくり委員会への参画など様々な取り組みが行われていました。安芸地区民児協でも、児童委員として、朝のあいさつ運動(ハッピースマイル運動)や、小学校への入学式・卒業式・参観日・運動会など行事参加はしていましたが、子どもとのかかわりは少なく、学校との連携も十分ではありませんでした。

このような状況の中、小学校側から、「児童委員に定期的に学校へ来ていただき、児童の勉強を見てもらいたい」と依頼があり、定例会で協議を重ね、児童委員3~4名を単位とし交替で学校訪問する新たな取り組みがスタートしました。

この活動をきっかけに、児童や教員を含めた学校全体との連携の体制の強化を展開していきたいと考えております。

❖ 活動目的

- ・ 児童の学力定着や生活態度改善を計るため、児童委員が訪問することにより指導人員を増やし、きめ細やかな指導体制をとる。
- ・ 児童とのかかわりの機会を増やし、担当地域での活動強化に繋げる。
- ・ 顔を学校側に知ってもらうことで、児童委員の周知また連携体制の強化を計る。

❖ 活動内容

日時 隔週木曜日

場所 安芸市立安芸第一小学校 教室

対象 放課後残っている児童(低学年中心)

- 内容**
1. 計算や漢字の答え合わせや児童のわからない事への指導
 2. 児童の生活態度の改善

❖ 活動で工夫している点

- 児童が不安感を持たず学習に取り組んでくれるように、児童と会話し関係を深めながら指導しています。また、指導に入る前に児童委員の得意な分野をいかせる教室を担当するために打ち合わせをしたり、ひとりの児童委員が続けて同じ児童を担当すると、慣れてしまい落ち着きがなくなる児童も出てくるので、ローテーションを組み指導をするといった工夫もしています。



愛 のもちつき活動

主催団体 ● 奈半利町社会福祉協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

独居高齢者や寝たきりの高齢者の方々に、少しでも楽しいお正月を過ごしていただきたいという思いから、町社協が中心になって実施しています。

現在の社会の礎を築いていただいた高齢者の方たちに敬意を表し、感謝の心をこめるため、昔ながらの杵とうすを使って手作りのおもちを届けています。



❖ 活動目的

社会的疎外感や孤独感を抱きがちな高齢者に安心感を持ってもらい、民生委員に対して気軽に相談等ができるような関係づくりの構築を目的としています。

❖ 活動内容

毎年末に民生委員全員とボランティアが集まり、手作りでおもちをつくり、それぞれ手分けして、高齢者の自宅を訪問し、声をかけながら手渡しをしています。

事業実施から約30年になり、すっかり恒例行事として定着しています。年によっては町長や副町長も参加され、高齢者の皆さんも大変楽しみにしている事業に育ちました。

❖ 活動で工夫している点

- 毎年必ず高齢者の異動がありますので、行政や関係機関と連携をとり、対象者全員にサービスができるよう努めています。

ひ とり暮らし高齢者訪問活動

主催団体 ● 田野町民生児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

本格的な高齢社会を目前に控え、ひとり暮らし高齢者が増加している傾向である。ひとり暮らし高齢者は、さびしく暮らされている方もおり、食事等も気がかりと言う声もありました。そこで、民生児童委員協議会事業の一環として、年1回、町内全域において、ひとり暮らし高齢者の安否確認を含め、五目寿司を配付することでの高齢者訪問活動が始まりました。



お変わりないですか？

❖ 活動目的

お住まいの地区の民生委員・児童委員が、ひとり暮らし高齢者を訪問することにより、高齢者の方々の状況を把握し、地域の方々による見守り体制づくりを推進するとともに、地域関係団体の連携促進を図り、地域でのふれあい、支えあい活動を進めることを目的とする。

❖ 活動内容

町内における「ひとり暮らし高齢者」のうち、77歳以上（年齢の変更あり）の方を対象に安否確認を行うとともに、五目寿司の配付を行っています。

この五目寿司は、前日から料理支度を始め、民生委員・児童委員の気持ちがかもった、あたたかい五目寿司となっています。この五目寿司を各地区担当の民生委員・児童委員が各地区に分かれて、ひとり暮らし高齢者のお家へ安否確認を兼ねて、届けに行きます。

訪問した「ひとり暮らし高齢者」には、「いつも、ありがとう」と、とても喜ばれており、民生委員・児童委員にとっても、とても喜ばしい活動の一つとなっています。

❖ 活動で工夫している点

- 配付する五目寿司には、民生委員・児童委員からのメッセージや担当地区民生委員・児童委員の氏名が記載されたハガキを添付し、民生委員・児童委員の周知も行っています。



喜ぶ顔がみたいね～

独 居高齢者愛の激励

主催団体 ● 安田町民生児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

安田町民生・児童委員協議会では、年末に「歳末助け合い事業」の一環で、町の社会福祉協議会と協力し、一人暮らしのお年寄りにお弁当を作って配っています。

はじめは、一軒一軒お餅を配っていましたが、一人暮らしのお年寄りに楽しい年末を迎えてもらおうと、いろいろと試行錯誤し、クリスマス会を開いて集まってもらったりしましたが、これないお年寄りもいるので、今のようなお弁当ともう一つ五目寿司をつけてお家を訪問して配っています。



❖ 活動目的

- ・一人暮らしのお年寄りの安否確認
- ・担当地区を訪問し、お弁当を手渡しすることで、日頃あまり関わりがなくても、顔見知りになって民生委員として身近な相談のできる存在として認識してもらう。

❖ 活動内容

- 日時** 年に1回 12月中旬に開催
- 場所** 安田町内
- 対象** 一人暮らしのお年寄り
- 内容** 町社会福祉協議会と一緒に、民生委員・児童委員全員でお弁当を作り、それぞれの担当地区の一人暮らしのお年寄りにくばっている。

❖ 活動で工夫している点

- 日頃は挨拶程度や姿を見るだけのお年寄りも、お弁当を持って訪問することで、最近身の回りのことや、体の具合など話ができるので、変わった事などないかを気配りしながら、担当地区をまわっている。



地域で子どもたちを応援しています

主催団体 ● 北川村民生児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

平成 17 年に北川村民生児童委員専門部会を設置し、子どもたちが自分たちの地域に誇りや愛着を持ち健康で心豊かに育ってくれることを願い、活動を実施。



あいさつ運動の実施

❖ 活動目的

テーマ 「ふるさとに愛着をもてる心豊かな子どもに育てよう」

サブタイトル 子どもも大人も共に育ち合う地域をめざそう！

- ・子どもたちに民生児童委員を知ってもらおう。
- ・子どもたちの問題を一緒に考えていきましょう。(関係機関と連携)

❖ 活動内容

- **あいさつ運動の実施** 月 1 回、通学路に立ち、声かけや挨拶を行ない、民生児童委員・主任児童委員を知ってもらおう。声をかけやすい関係づくり。
- **保育・小学校・中学校との懇談会の実施** 年 1 回、園長・学校長を招き、子どもたちの現状と課題について話題提供をしてもらい、民生児童委員・主任児童委員と意見交換を行う。
- **赤ちゃん訪問** 主任児童委員が北川村で生まれた赤ちゃんを保健師と一緒に訪問し、気軽に相談ができるような関係づくりをしています。
- **子どもたちとの交流行事に参加**
人権紙芝居を実施
高齢者と子どもの交流グランドゴルフ大会参加(ゴルフ・昼食のカレー作り)
夏休み工作教室への協力

❖ 活動で工夫している点

- あいさつ運動や行事への参加を通して子どもたちや親と顔見知りの関係をつくり、何かあった時に声をかけられるようにしています。



人権紙芝居を実施

ふ くしふれあいもちつきの取り組み

主催団体 ● 馬路村民生児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

30年ほど前から「正月用のお餅をお年寄りに送ろう。よい年を迎えよう」の呼びかけで始まりました。



今年度は小学生に参加してもらいました

❖ 活動目的

- ・ 地域の高齢者等の様子うかがいをする。
- ・ 普段あまり接触のない方と話ができる。

❖ 活動内容

日時 年末第4週 午前8時から正午まで

場所 馬路村就業改善センター 調理室

対象 馬路村村内の独居高齢者等

内容 正月用の餅の配布

対象者の様子うかがいをする

❖ 活動で工夫している点

- 正月用なのであんこの入らない餅を多く入れています。(1パック10個)のしに一言添えるようにしています。「来年も元気に過ごしましょう」など。



子育て支援

主催団体 ● 芸西村民生委員児童委員協議会

協力団体 ● ボランティア団体・自治会



❖ 活動内容

- 子育て支援 偶数月の第3木曜日
- 乳児 健診 奇数月の火曜日(1回)
- 1才6ヶ月健診 年3回 4ヶ月に1度
- 3才児 健診 年3回 4ヶ月に1度
- ブックスタート 年3回 4ヶ月に1度

子育て支援は、栄養士さん、保健師さん、民生委員3名と保健センターの職員等5名位で、お母さん方が離乳食を含め、栄養指導を受けている間子守りをします。(参加する方は多い時で9名位)人見知りが始まって、1時間余り泣きとおす子も居ますが、そこは経験豊かな(?)委員達ですし、場所も“ふれあいセンター”の一室と言う事もあり、そこに集まっている地域の利用者の方達の応援もあり、無事努まっています。その後、皆で試食会をし、意見を交換し合い、若いお母さん方の子育ての不安が少しでも解消出来たら、お役に立っているのかなと参加しています。



❖ 活動で工夫している点

- 若いお母さん方に、私達を知って頂ける様なるべく声かけをし、ブックスタートでは、小さいうちから本に親しめるよう本読みを勧めています。私達が勧める迄もなく、ちゃんと読み聞かせをしているお母さんも居て素晴らしいと思いました。



南海・東南海地震に備えて

主催団体 ● 南国市民生児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

南国市民生児童委員協議会では、民生委員制度創設 90 周年事業「民生委員・児童委員発災時一人も見逃さない運動」の取り組みとして、平成 19 年度に災害対策委員会を設置して、今後の取り組みについて協議いたしました。

その中で、災害時要援護者台帳の整備とマップ作りを行うことを決議いたしました。

まず、台帳様式をどのようにするか、また調査はどのようにするかを話し合いました。



災害時要援護者台帳作成の聞き取り状況

❖ 活動目的

この災害時要援護者台帳の整備につきましては、すでに他の民児協でも取り組まれているところではありますが、南国市民児協では個人情報保護条例での制約もあり、住民票による情報は使わず、民生委員が自分の担当地区の高齢者宅を戸別訪問する方法で、調査を進めております。この点が他の民児協さんとの取り組みと大きく違うところではないでしょうか。

❖ 活動内容

平成20年度からの調査に入りパソコンへの入力、台帳整理を行っております。高齢者対象の聞き取り調査では、生年月日、自宅の耐震補強の有無などについて正確さの点では少し不安なところがあります。また、情報量も少ないということもあり十分とは言えないですが、緊急時の連絡先などにつきましては、出来る限り聞き取るようにしております。

調査は今回限りではなく、21年度以降さらに更新のための調査を重ねていくことで、より精度の高いものになると考えております。

災害対策委員会では神戸市の「人と防災未来センター」で、当時の凄まじい状況を見せて頂き、「南海・東南海地震」が発生したとき、要援護者の安否確認、そして避難所における対応などにつきまして研修いたしました。

台帳の活用に当たりましては、個人情報保護の観点から取り扱いには細心の注意を払ってまいります。

なお、この要援護者台帳の整備に当たりましては、初期の段階から高知県中央東福祉保健所の担当者の方から、ご助言、ご協力をいただきましたことを申し添えます。

❖ 活動で工夫している点

- 要援護者への家庭訪問につきましては、2人以上で実施しています。
- 要援護者宅への訪問調査等につきましては、事前に在宅時間等の調整をしながら、ご理解とご協力を得て実施しています。



「人と防災未来センター」にて研修中

認知症の相談所開設とその活動

主催団体 ● 香美市土佐山田町民生児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

香美市では地域包括支援センターが“認知症を理解し、見守ることのできる人”を増やすために認知症キャラバンメイト養成講座を開催しています。この講座に参加した民生委員の呼びかけで土佐山田町民協としても認知症の問題に取り組むことを決め、全員で認知症サポーター養成講座を受講しました。

認知症に対する意識が高まる中、「身近に相談できる場所を」との介護者の声をきっかけに「認知症よりそい相談所」が社協事務局に開設され、民生委員が相談役となっています。



住民の方に広く門戸を開けています

❖ 活動目的

- 認知症サポーターとしての役割。
- 認知症の方や心配のある方が気軽に相談できる場所を作ります。
- 認知症の家族及び介護者の話し相手になることや相談にのる取り組み。
- 他業種との交流によって認知症の研修を深めることができます。
- 相談を受けることによって経験や勉強になります。

❖ 活動内容

毎月第2金曜日、午前10時から午後3時まで香美市社会福祉協議会事務局内に「認知症よりそい相談所」を開設し二人一組で相談を受けています。



民生児童委員（右）と香美市社協介護職員（左）との二人一組での相談対応の様子

❖ 活動で工夫している点

- 「認知症よりそい相談所」を始める前に、認知症に係る認識を深めるために家族会から講師を招き研修しました。
- 開設後、中間点で専門の講師を迎えて相談内容をもとにした研修を行いました。
- 年度末には相談内容のまとめ、認知症の実態を研修し、来年度に向けての取り組みを考える研修を行います。
- 香美市広報や香美市社協だよりなどに掲載し、多くの市民に向けての広報を行いました。

地域の宝 子ども達とのふれあい活動

主催団体 ● 香美市香北町民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

これまで民生委員児童委員の活動は、高齢者に関することが多かった。香北町内でも少子化に伴い、民生委員でも担当地域の子どもをあまり知らない、話をする機会が少ないのが実態だった。しかし、子どもは地域の宝、地域で子どもを育てようという観点から、主任児童委員を中心に子どもに目を向ける活動に取り組むことになった。



おやつづくり

❖ 活動目的

子ども達を知るために、まず度々逢って顔見知りになって、声かけをすることから始めた。小・中学校や児童クラブなどと連絡を密にして、民生委員が出来ることから取りかかることにした。

❖ 活動内容

- 登校時のあいさつ運動(年間、1人3回)
毎月「3木の日」(毎月第3木曜日)の朝、小・中学校の校門をはじめ、通学路の要所に立って、声をかける。
- 児童クラブの支援
夏期休業中の毎週火曜日に、大宮小児童クラブに入っている子ども達(約30名)と体験活動をした。読みかせ・折り紙、おやつづくり、昔遊び、紙玉鉄砲づくり、紙ひこうきづくりの5活動の中から各民生委員の希望で参加した。1活動に7~8名の民生委員が参加した。
- “香北いきいき合衆国”で民生委員の存在をPR
「子どもの城」というブースを設け、簡単なおやつを焼いたり、マスコットを作ったりして、子どもや保護者とふれ合った。
- 小学校の“あい・愛ふれあいまつり”に参加
民生委員独自のメニュー(今年は紙ひこうきづくり)で子ども達と一緒に楽しんだ。

❖ 活動で工夫している点

- 民児協の児童部会で活動について協議し、定例会に提案している。子どもに関するこれらの活動が、民児協のみんなのものになるよう努めている。



紙玉鉄砲づくり

地域の状況把握と訪問活動

主催団体 ● 香美市物部町民生児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

少子・高齢化が進む物部町において追い討ちをかけるように過疎化が進み限界集落になっていく地域が殆どとなっています。そうした中で「民生児童委員がそれぞれ自分の受け持ち地域だけでなく他の地域の状況も把握し、共に協力し合って活動することが大切である」との話し合いを役員会で行いました。そして、定例会において各委員に提案し、地域の状況把握に取り組むための訪問活動を始めました。



各グループにわかれ意見や感想を出し合い
情報交換をする

❖ 活動目的

委員それぞれが他の地域の現状を知ることによって、お互いの理解を深め、連携強化に役立つものと考えます。さらに、定例会等での発言もしやすくなり、何でも話し合える雰囲気作りと、和やかな民児協運営に結びつくことを目的としています。そして、山間部の独り暮らしの高齢者は隣近所が遠く、話し相手もなく寂しい思いをしているのではないのでしょうか。訪問する事で少しでも慰めになればと思っています。

❖ 活動内容

委員4~5名を1グループとし6班に分け年1回10月を「地域の状況把握と訪問活動」として実施。担当の委員が自分の受け持ち地域を案内し、独り暮らしの高齢者を訪問しています。

次の事について観察及び聞き取り

ア) 災害時の非難場所について

イ) 買い物はどのようにしているか

ウ) 病院あるいは外出時の交通手段

エ) 生活用水、防火用水の状態

オ) 地域(家の近辺)の危険箇所

カ) 振り込め詐欺、悪徳商法にかからないための注意喚起

キ) 民生児童委員が今取り組んでいること(PRを兼ねる)

ク) 最近話題となっていること

など、グループで検討したことについて11月の定例会で発表しています。

❖ 活動で工夫している点

- 訪問後の定例会時には委員の情報交換の場となるように皆が発表できるようにしています。また、内容によっては行政や関係機関に繋げていくように心がけています。



高齢者を訪問する途中で危険箇所等を調査

ワ カバ会の集い(浜口地区のミニサロン)

主催団体 ● 香南市吉川町民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

高齢化が進む中で、お年寄りの日頃の見守り活動で何か工夫できないか考え、他町へミニサロンの視察研修に行き、自分の担当地域に取り入れました。



アコーディオン奏者を招いて皆で合唱

❖ 活動目的

高齢者の見守りを兼ね、お年寄りが集まれる居場所づくりと、引きこもりの予防など心身のリフレッシュ。

❖ 活動内容

地域の集会所に月1回程度集まり、折り紙や手芸などを楽しんでいます。

家に居ると日頃はなかなか取り組めないような事も、仲間と一緒に楽しいおしゃべりをしながら作品づくりをしています。又、皆と一緒に和気あいあいとした昼食タイムで楽しいひとときを過ごしています。



別の日には紙押し花で割り箸入れを作りました。

❖ 活動で工夫している点

- 高齢者が楽しんで過ごせるように、毎回異なったレクリエーションなどを行い、時には行政など専門的知識を持った人を招き、認知症の予防や健康について関心が持てるようにしています。



クリスマス会ではプレゼント交換とゲームを楽しみました。

笑顔で交わす「おはよう」の朝:朝のあいさつ運動

主催団体 ● 香南市野市町民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

児童の安全を守ろう、児童との交流を深めようと、野市町にて平成14年度から「毎月20日はあいさつの日」として制定し、朝のあいさつ運動をはじめました。3年前、市町村合併をしたことを機にあいさつ運動の推進母体はなくなりましたが、野市町民協では、児童との交流の機会のひとつとして、また児童の変化に目を向けられるようこの活動の継続を決め、今春で9年目となります。



❖ 活動目的

子どもたちの安全を守ることはもちろん、子どもたちや地域の方に民生児童委員の顔をおぼえてもらうことを目的として活動しています。

❖ 活動内容

毎月20日の早朝、学校の校門や街角で、あいさつ運動のたすきをかけて、通学途中の児童に「おはよう」と声かけしています。あいさつだけでなく、「いつも元気な子が、きょうは少し元気がないな」など、児童の変化にも気付くことができます。

また、あいさつ運動から、さまざまな活動への広がりが生まれました。あいさつ運動を通して学校と交流するようになったことで、学校訪問事業へと発展しました。現在では、町内の保育所、幼稚園、小学校、中学校を定期的に訪問しています。

つながりができたことにより、学校行事へのお誘いを頻繁にいただくようになりました。例えば、小学校の夏休みラジオ体操にも、それぞれの地区の民生児童委員が参加するようになりました。町内で児童と会うと、「ラジオ体操のおじちゃん、おばちゃん」と声をかけてもらえるようになりました。

また、野市町民協の全員が「のいちタウンポリス」の会員となっており、登下校の見守り活動もおこなっています。これらは、日頃の活動を通して子どもたちの顔をおぼえ、また子どもたちに民生児童委員の顔をおぼえてもらうことで、安心して活動できるようになっています。

❖ 活動で工夫している点

● あいさつ運動実施の1年間の予定表を学校の日程と合わせて作成し、配布しています。また、あいさつ運動をする場所は、学校の校門だけでなく、それぞれの民生児童委員の近所や児童のよく通る場所としています。



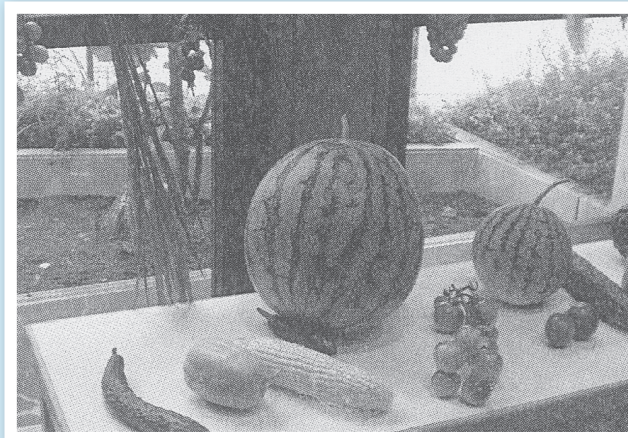
幼稚園児との七夕祭り

主催団体 ● 夜須幼稚園

協力団体 ● 香南市夜須町民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

事業計画書を作る際、委員の方から保育園児や幼稚園児との触れ合いの大切さを提言されたので、保育園は本の読み聞かせ（1回/月）と、暮れの餅つき、幼稚園は本の読み聞かせ及び、預かり保育支援（1回/月）と七夕祭りを計画する。



大玉スイカは農家の方より

❖ 活動目的

- 楽しい思い出を作ってもらおう。
- 心の交流を図る。
- 健全な子供に成長してもらおう。
- 地域の園児と顔見知りになる。

❖ 活動内容

日時 毎年7月7日 午前9時~11時

場所 夜須幼稚園

対象 全園児

内容 飾りつけ

七夕にまつわるお話及び紙芝居

水鉄砲（委員作）遊び

❖ 活動で工夫している点

- なるべく華やかにする為に注連縄（自作）の稲藁、及びお供え物の確保



願いを短冊へ



飛ぶカナ？

あのね広場における子育て支援活動

主催団体 ● 香南市香我美町民生児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

平成14年7月に香我美おれんじ保育所が開設せれ、同時に子育て支援センターも開設。その当時、主任児童委員と更正保護女性会を兼務していた方の「何か地域の役に立てる活動はないか」との思いと、職員の「地域の方の力を借り、子育てサポートをお願いできないか」との思いが一致。子育て支援センターの活動に平成17年度より女性民生委員が、また19年度からは男性民生委員も参加しています。



❖ 活動目的

香南市になってから香我美町内においても転勤などで転入出があり、また、野市町からの利用者も多く、住民の入れ替わりもあり、実態の把握ができていく事もありました。しかし子育て支援センターで顔なじみになる事で、繋がりが持てるようになります。

- ・地域と子育て世代のつながりを密にする。
- ・子育てや生活のことなど、豊富な知識を伝える。
- ・民生委員、更正保護女性会のそれぞれの得意分野を活かせる場となるようにしていく。(例えば、伝承遊びやわらべ歌など)

❖ 活動内容

- 月1回、子育て支援センターでの身体測定・計測の補助。
- 毎月第2・第4火・木曜日、午前9時半より11時まで子育て支援センター「あのね広場」のボランティア活動。

あのね広場では保護者の相談を受けたり、兄弟で遊びに来たときなどは赤ちゃんを見たり、子供たちの遊び相手になったりしながら積極的に親子と関わっています。また、節分やクリスマス会などでは、鬼になったりサンタクロースになったりして季節の行事と一緒に楽しみながらだんだんと顔見知りになり、信頼関係を築いていき、お互いに子供の成長を喜びあえます。また時には子供たちから元気ももらったり、有意義なふれあいの場となっています。

❖ 活動で工夫している点

- 当番表を作成して、男女1名ずつ2名で対応し、バランスよく活動ができるようにしています。また、あのね広場以外で会った時などに声かけをしたりして、見守り活動にもつなげています。



安心・安全・美しいまちづくりの推進

主催団体 ● 香南市赤岡町民生児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

「民生委員・児童委員活動強化週間への取り組み」を検討する中で、日常の活動においても、どちらかといえば高齢者中心の活動になりがちなので、児童を中心に据えた視点の必要性が話し合われた。



❖ 活動目的

心豊かな児童を育み、命を守れる、安心・安全・美しいまちづくりをすすめる。
民生委員・児童委員のPR活動も兼ね住民に見える形で活動する。

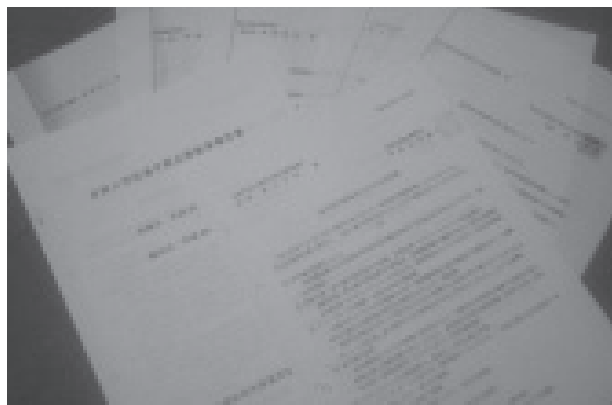
❖ 活動内容

公園の雑草除去、トイレの清掃、集会所周囲の雑草除去、樹木の選定、小学校の通学路点検、子育て家庭の訪問調査など。

特に平成20年度に実施した通学路点検においてであるが、民協で一団となり、赤岡小学校の通学路を歩いて点検した。児童の安全上問題ありと認めた件は、危険箇所の写真添付の文書により関係各機関に報告し回答を求めることにした。交通事故多発地点のため、十数年来住民の要望がありながら実現できなかった信号機設置に関しては、学校、保育所とも連携し、署名活動を推進した。その結果21年度中の信号機設置が決定した。

❖ 活動で工夫している点

- 地域の力として、すばやく的確な対応ができるように保育所や学校の諸行事にも積極的に参加し、連携を密にしている。



防 災マップ 見守り台帳づくり

主催団体 ● 本山町民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

社会福祉協議会と民生委員協議会は、地区こん談会に出席し、見守りの必要性の確認をしていました。その必要性について再確認し、見守りマップの作成を行うことになりました。



別府市朝日校区・本山町民児協研修会

❖ 活動目的

通常の見守りと災害時の救出が早くできるよう作成にとりかかりました。

❖ 活動内容

それぞれの担当地区のマップ作りをし、要援護者の台帳整備をしました。

マップや台帳をつくるにあたり、別府市朝日校区民児協と意見交換会をもつことができ、他の民児協もいろいろと工夫をされている様子がかがわれました。

そして、福祉協力員や区長さんの協力があり今の台帳が出来あがりました。

❖ 活動で工夫している点

- 高齢者、ひとりぐらし高れい者、障害者、子どもなどを家庭でわかるようにマップに色わけをしています。
- 年度末には、変更がないか、地区ごとに渡して確認を毎月定例会で行っており、常に情報交換をしています。



毎月定例会の様子



意見交換会の様子

ここで住んでよかったと言える町づくり

主催団体 ● 土佐町民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

土佐町は高齢化が40パーセントを超え、地域における支えあいの力が弱くなってきている。中でも、一人暮らし老人・高齢者世帯の増加に加え、さらに21年4月に5つの小学校を1つに統合。そのため登下校時や放課後の見守りの必要性が更に高まり町全体の団体やボランティアと協力し学校応援団が組織された。民生児童委員も他の組織としっかりと連携し、安心して暮らせる町づくりを一層すすめるなければならない状況となった。



❖ 活動目的

- 一人ひとりの生活課題に応じた支援ができる体制をつくること
- 町全体の組織の応援協力をいただくため、連携を密接にすること

❖ 活動内容

民生委員児童委員による担当地区の要援護者のリスト（ネットワーク名簿）づくりにより、早期発見、迅速な対応ができるように、社会福祉協議会・地域包括支援センター等との面談を実施し、住民福祉サービスやボランティア活動につなげている。

さらに、JA・郵便局・高知新聞販売所・警察・行政の協力を得て、子どもから高齢者が安心して暮らせるように、見守り活動をさらに強化している。

❖ 活動で工夫している点

- ネットワーク名簿に避難できるかどうかや移動手段、認知症に関する項目を追加し支援活動につなげている。特に、認知症のケアにおいては、社協が取り組みを進めている「あじさいネット」（保健・福祉・医療・介護保険事業所・包括支援センター・民児協等が連携してケア生活支援をするため立ち上げたネットワーク）にも加わり、個別事例検討につながっている。



お節料理

主催団体 ● 大川村民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

大川村では、昭和 59 年 10 月より毎月 15 日に 80 歳以上の独居老人に昼食用のお弁当を持って訪問し、対象者と一緒に食べながら世間話をして、一時でも日頃の寂しさが解消でき、又、日常生活の様子を得ることができればと始めました。その後、ますます過疎高齢化が進み独居老人が増え、寂しく年末年始を迎える高齢者に何かできないかと、平成 7 年度から「お節料理」の配食を始めました。



お節料理の盛り付け中

❖ 活動目的

- 一人暮らしの寂しさ解消。
- 新しい年を迎える心構えをし、少し早いお正月気分を味わって貰えないか。

大川村で、一人で生活して居るのではなく、村全体で高齢者を見守っていますよと、思いを込めて活動しています。

❖ 活動内容

民生委員、社協職員が、前日から買い物、下ごしらえをして、当日は女性が料理を担当し、出来上がった頃に男性民生委員も加わって、全員で担当地区の 75 歳以上の独居老人に、お正月のお餅を添えてお節料理を配ります。

一人ひとりに声を掛け元気な顔を拝見しながら、独居生活者が、安心して新年を迎えられるよう、そして来年も良い 1 年になりますよう願って、活動を続けています。

❖ 活動で工夫している点

- 地産地消で、できるだけ手作りの料理を提供できるように心掛けています。特に小豆の羊羹とお雑煮用のお餅を一緒に届けていますが、大変喜ばれています。



良いお年を迎えてください

あ さひのような温かい優しい地域づくり

主催団体 ● 高知市旭地区民児協民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

近年著しい社会情勢の変化に鑑み当旭地区は、平成14年4月・単位法定民児協発足に伴い、より専門的な知識と経験を深めて、自己研鑽や情報収集・交換を重ねて地域福祉の推進を計り地域住民の期待に応えるため。



❖ 活動目的

高知市で最も多い人口を持つ“あさひ”民児協72名は、地域が抱える子供、高齢者、障害者の課題毎に部会を作った。

毎月各部会の活動と意見交換を通じ、解決の方法を話し合い、温かい、優しい民児協になるよう努めている。

❖ 活動内容

高齢者福祉部会(24名)、地域の高齢者や老人ホーム等の理解を深め、老人医療に明るい専門家を招き、年に一度は研修等に取り組んでいる。

さつき祭り、夕涼み会は、地域の方たちと交流、蓮花ドライブの時に施設を利用されてる方達と一緒に食事をして帰ってくる。運動会、防災炊出しや又、一年のしめくくりの餅つき等、民生委員がチームワークよく先頭に立って活躍している。

児童福祉部会、主任児童委員を含めて24名である。地域の情報や要望を聞き取り、認識を共有し、当面する諸課題に部員全員が取り組むことになっている。

小中学校四校と情報交換会を年一回行っている。これに基づき、学校行事への参加を通じ、図書館支援など交流を深め、また、蛍祭り、納涼祭、JAとの交流等も行い、地域活動にも関わっている。各種講習会にも積極的に参加し、知識の向上にも努めている。

又、忙しい中日程を調整し、出来れば全員が参加することを心掛けている。障害者福祉部会(24名)、地域と障害者の間の壁を取り除くためにはまず、私達(民生委員)が障害者やそのご両親と交流し理解を深め意識の変革を図る必要がある。

平成22年1月旭障害者センターにおいて交流会を実施。

施設研修を定期的に行っているが、必ず地域の中の施設を前提に企画、立案を実施している。



来年は良い年でありますように!!

主催団体 ● 上街地区民児協民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

これは、毎年行っている継続事業ですが、写真の撮りだめがないため、この事業を取り上げました。

主にひとり寂しくお正月を迎える一人暮らしの老人をなぐさめ、励まそうと、毎年としの暮れに訪問、話し相手になり、一寸した用も足してやり、健康状態などに話しが及ぶと、人間関係が非常に良好になり、その後の民生委員活動に役立つ。



配布物の品揃え

❖ 活動目的

定期的に訪問している老人も含め、この歳末事業では一人暮らしの高齢者などを訪問、新年のお正月を迎えるに当たって、励まし、心の通い合う関係を築くのを目的としている。

一人暮らしの生活は話し相手も非常に少なく、その寂しさを訴える人も多く、ただ話し相手になってやるだけで満足して頂ける場合も結構多いし、もちろん相談事があれば相談を受け、そんな中で信頼関係が構築できる。

❖ 活動内容

年末のこととて、切り餅そしてタオル・手紙等を携え、一人暮らしの老人宅を訪問、その他にも準要保護所帯で障害者の居られる家庭には見舞金を、母子・父子所帯等にはその他に児童用ズックを進呈、また寝たきりの老人には、シーツを携え訪問している。

切り餅・タオル・ズック・シーツ・タオル・手紙・そして金封等、配布の種類が多岐にわたるため、品揃えに苦労するが、ことにズックは性別、サイズが必要なので、あらかじめ聞きに行き準備をしている。年末のなにかと忙しいとき委員さんには大変だが、訪問をうけた方が非常に喜んでくださるので、毎年続けている。



さあ一出発だ!!

八 反町あすなる会百歳体操の紹介

主催団体 ● 高知市小高坂地区民児協民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

高知市役所から、「八反町で百歳体操をはじめてもらえないだろうか。」との依頼があり、野田会長、松田さん、起塚さん達と説明を伺い、お年寄りの健康増進に役立ちそうなのではじめた。



皆さん大変若い方達です

❖ 活動目的

八反町近辺のお年寄りの健康増進、寝たきり防止、親睦、活動範囲の拡大と多彩な知識獲得（ミニ講座開催）等、欲張りな目的をもって活動している。

❖ 活動内容

毎週、火、金曜日の10時から、百歳体操（スペシャル版）とかみかみ百歳体操を行っている。毎回25名以上の参加者があり、サポーター6名が交代で実施している。

実施して1年と9カ月になるうとしています。市役所からの測定や指導が終了し、体操だけの日々が続くので、ミニ講座を月1回実施することにした。3月に第1回目の講座、「認知症について」を細木病院の看護師さんに、行って戴くことになっている。第2回以降は、「骨、間接などの病気」、「失禁や、その対策」、「糖尿病の症状」（以上は細木病院へ依頼済み）、「今日から出来る健康づくり」、「在宅医療と在宅介護」（以上県へ依頼の予定）を行う予定である。

❖ 活動で工夫している点

- 参加者の出席簿を確実に付けて、1年間の参加回数上位3位までの方に、粗品（市役所から提供）と表彰状（あすなる会で作成）を授与している。ちなみに1年目は88回開催し、皆勤者が1名おりました。

敬老会 ふれあいバスツアー

主催団体 ● 高知市江ノ口東社会福祉協議会 協力団体 ● 高知市江ノ口東民生委員児童委員協議会、江陽小学校
歌や踊りの方がた、江陽小区交通安全会議、各町内会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

江ノ口東民児協では、江ノ口東社協と共に高齢者を対象とした事業『敬老会、ふれあいバスツアー』を行っています。(敬老会) 高齢者の方々をお招きして楽しい1日を過ごしていただきたい。(ふれあいバスツアー) 一人暮らしの高齢者の中には、人との会話や外出が少なくなったりする方が増えてくることが考えられます。そこで遠足のように大勢で外出することで、気分転換をはかり、元気に暮らしてもらいたいと思います



民生委員も踊りに参加

❖ 活動目的

- **敬老会** 人生の先輩である高齢者の皆様に敬意、余興などで午後のひと時を過ごしていただく。大きな声で笑ったり、思いっきり楽しんでほしい。
- **ふれあいバスツアー** 独居高齢者と児童の皆さんに楽しい時間を共有してもらおう。高齢者の方は、子供との交流で昔のことを思い出し、明るい気持ちになってほしい。また、児童達も高齢者との会話や遊びの中でいろんなことを学べる。自然や文化に親んでもらおう。

❖ 活動内容

- **敬老会** 敬老の日の午後1時から3時まで、高知市保健福祉センターで76歳以上の高齢者を対象にして踊り、歌などを楽しんでいただきます。大変熱のこもった演技でみんなから好評です。大切な交通安全の話も逃しません。最後は民生委員、主任児童委員の歌か踊りがあります。お土産と車の送迎もずっと受け継がれています。
- **ふれあいバスツアー** 年に一度、牧野植物園などに、65歳以上の独居高齢者、江陽小学校の1年生、先生、社協会員、民生委員、主任児童委員がバスで出かけます。現地で合流したら子どもたちと共に歌を歌ったり、ゲームをしてふれあいます。子どもたちと一緒に遊山です。児童達は元気で、とてもにぎやかになります。その後、自由にのんびりと文化施設の見学や公園などを散策します。核家族化が進む一方で、思いやりや優しさを見せてくれる場面が自然に生まれて喜ばしい。高齢者達が昔遊びを教えてくれたり、上手く交流する相手を見つけ出して、笑顔がたくさんみられます。

❖ 活動で工夫している点

- **敬老会** 高齢者が楽しめ、出演者にも嬉しいプログラムを作る。少ない予算でお土産の工夫。
- **ふれあいバスツアー** 高齢者や児童に無理が無く、共に楽しめる場所に行く。児童と一緒に楽しく過ごしてもらおう。事故、怪我の無いよう見守る。



みんなでうれしいお食事

誰もが通る道 ～ 年を重ねるすばらしさ～

主催団体 ● 高知市江ノ口西民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

30余年前。江ノ口社協と江ノ口西民児協が協力し、「家庭の中、地区の中でずっと中心的役割を果たしてこられた高齢者の方々をねぎらいたい」、「住み慣れた地区で暮らしてきた同世代との交流もさることながら世代を越え、後輩達へ生きてきた証！人生の道しるべを伝授して欲しい」そして何よりも「ご自分の長寿を喜んで欲しい」と始める。



熱心に聞き入る現代龍馬、現代おりょう！

❖ 活動目的

「高齢者の方は元気で生きがいある人生を！」「地区の住民は見守り、福祉への関心を！」春のふれあいの会（75歳以上の独居、80歳以上の方）、秋の敬老会（75歳以上の方）はこうして誕生した。出不精の方、行動に制約がある方も誘い合い、町内単位を越え、地域全体で皆がお互いに助け合い支え合って生活する町、江ノ口西地区を目指す。

❖ 活動内容

春、秋2つの行事では、講演する先生もそれを聞く参加者（生徒）も同世代。両者が切磋琢磨することを願ったこと。また、今まさに社会問題になっているような事柄も取り上げ、皆で注視もする。しかし、元気で出席出来る方は該当者の20%に足りない。大切な事は今、地区の高齢者の方がどんな状況かを見知る事。その手段として春、秋の招待状は一人一人の家庭に直接届けている。本人や家族と会い、近況を聞く。1対1のふれあいの会だ。後日、記念品を持参の時は次回の誘いを。また、同時に地区の数ヶ所で定期的開催している「ミニデイ」「100歳体操」も含め、高齢者参加の4つの行事が手を携えることも大切な要因。「してあげる」、「してもらう」ではなく、「させて戴く」という気持ちを持つこと。いずれ誰もが通る道だから、皆が同じ目線であることが大切だ。

❖ 活動で工夫している点

- 会場が遠方の為、交通費を助成
- エコを考えゴミは各自で持ち帰る習慣を促す
- 今後の課題点「医師・看護師との連携」、「運営スタッフによるAED講習、災害・緊急時の救護訓練」、「現時点で参加できない方への配慮」等



皆で歌うとまた、たのし

みんなの居場所(いきいきサロン)

主催団体 ● 潮江地区民生委員児童委員協議会

協力団体 ● 町内会・自治会 婦人会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

私たちの地区でも高齢者の死後発見が発生して悲しい思いをすることがあります。

高齢者が不安や危険を感じながら寂しく独りで生活を送っている実態が年々増えている。いろいろな事情があって孤独な生活をしていると思われるが、様々な事故が発生している現状を解消しようと対策を模索している中から高知市が開発した「いきいき・かみかみ百歳体操」を民生委員主宰で導入することにした。



平成 17 年 7 月開設 塩屋崎公民館

❖ 活動目的

ひとり暮らしの高齢者や孤独な生活を送っている人達に声掛けをして連れ出そう、友達を作って話し合いの機会を作ろう、茶飲み仲間を作りお喋りの場所を開設しようと立ち上がった。たまたま高知市が高齢者の介護予防対策として『いきいき百歳体操』を開発した。試してみると結構楽しいし、体力維持や生きがいがづくりに最適と高齢者から評価を得たので本格的に取組を始めた。

❖ 活動内容

- 日時** 毎週 1 回（曜日は自由に決定）
- 場所** 地区内の公民館・集会所等 19 箇所（使用料原則無料）
- 対象** 高齢者・障害のある人、児童・女性会員・町内会・自治会の会員
- 参加料** 原則無料



潮江中学校の生徒さんとの交流会

❖ 活動で工夫している点

- 民生委員の見守り活動の具体的な方策・対処の手段として実施している。対象者の参加実績は、平成 20 年度は延べ人数にして 12,000 人を記録した。ここから得られるさまざまな情報は、体操参加者はもとよりその周辺の対象者の生活情報までが得られて、地域福祉の担い手である民生委員活動に寄与している。



皆でにぎやかに楽しくお話しをしています

いきいき100歳体操・子育てサロン“さくら”・配食サービス

主催団体 ● 高知市南街地区民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

南街地区は老人の為の集会所がなく、老人同士の繋がりが希薄です。「高齢者認知症モデル地区」となった事をきっかけに“水・メシ・クソ・運動”を実践し、老人同士の連携をもってもらいたいため発足しました。

核家族化がすすみ、子育てに対する不安をもっているお母さん方が多いと知り、また、転勤族でこの地区に馴染めずにいる親子がたくさんいます。その人たちを何とか地域に馴染ませようと発足しました。



「100歳体操」の後、南街保育園々児との交流

❖ 活動目的

筋力や体力を強め、体を柔軟に、しなやかにし、自分の力で生活が出来る体力を作る。
寝たきりにならない老後を迎え、地域の一員として生活していく精神力をつける。
親子が心配のない子育てをし、地域に馴染み、安心出来る子育てをする。

❖ 活動内容

週一回（月曜日午前）「100歳体操」、「かみかみ体操」。月に一回、近くの保育園児との交流、季節毎のイベント、合唱……。趣向を凝らした集会にしています。

月2回（火曜日）午前中2時間 生まれたばかりの赤ちゃんから入園前の児童が集まり親子がホット一息できる場所、親同士が仲良く出来、情報交換できる場所を提供する。場所を借りている幼稚園児と交流する。

年に2回80歳以上の高齢者、70歳以上の一人暮らしの方々に配食サービスをする。

❖ 活動で工夫している点

●どの活動も「一人ではない、地域には仲間がいます。安心できる子育てが出来、元気で老後がおくれる街です」ということをアピールしています。プライバシーには首を突っ込まず、つかず離れず、細く長いつきあいでいきたいと思えます。



「子育てサロンさくら」初めて会ったお友達とも仲良し

新 堀小学校図書室での見守り活動

主催団体 ● 高知市北街地区民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

日頃校区児童との交流が希薄なこともあり、高知市北街地区民生委員児童委員協議会では、新堀小学校との連携活動の一環として、児童とのより一層の緊密な関係を築き、要保護児童の早期発見、児童虐待防止活動を推進しております。



❖ 活動目的

平成 20 年 2 月、南国市大篠小学校の 5 年生男子が虐待死致しました。これを契機として、私共北街民生委員児童委員協議会では、地元唯一の新堀小学校において、このような事件は決してあってはならないと児童虐待防止を目的に、小学校の図書室の見守り活動を始めました。

❖ 活動内容

新堀小学校における児童の見守り活動の方法について考えてみた場合、どのような方法があるか、定例会でいるんな提案があった中で図書室での子どもと一緒に読書や本の整理整頓、貸し出し返却活動を始めました。

児童の自主活動や読書風景を見るなかで、子ども達に夢を与えるために、初めての試みと思われる紙芝居を始めました。

子ども達の目を輝かせて聞きいって聞いている姿をみて、私達も、やりがいがあり、学校へ行くことに生きがいを感じるようになりました。

児童委員や主任児童委員が 2 人 1 組で、ローテーションを組み、週に 4 日、午後 0 時から 3 時頃まで、図書室を開放、休み時間が終われば授業参観をしたり、下校時間になっても学校に居残っている子どもや不審者がいないかなど、異常がないか学校内外の見回りを行っています。

❖ 活動で工夫している点

- 今までの活動を原点に、なるべく多くの児童を対象に、興味をもってもらい、民生委員も児童委員ももっと多く学校へ出入りし、あるがままの姿を身近に感じるように心掛けております。



地区独自の緊急小口資金の貸出し

主催団体 ● 高知市下知地区民児協民生委員児童委員協議会 ・ 高知市下知地区社会福祉協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

民生委員を通じ緊急小口資金の借受相談が相次ぎ、市社協に相談するも当時の貸し出しは決定までに10日~2週間ほどを要した。借受資金の用途は不慮の出来事が多く緊急を要するため、地区社協・民児協として相談に応じることができなかった。

❖ 活動目的

借受世帯が民間金融業者からの利用をできるだけ避けるよう、借受世帯保護を目的として担当委員と住民の信頼関係のもとに安心して要望を満たすため、市社協ではできない担当地区だからこそできる地区独自の緊急小口資金貸出しを平成3年4月より発足した。

❖ 活動内容

- 地区社協・民児協共同の独自の貸付事業
 - ・ 資金は市広報誌委託手数料を充当
 - ・ プライバシー保護のため相談受付は担当民生委員のみ
 - ・ 返済計画は生活に無理のないように設定し、たとえ期日に返済できなくても償還期間内で延期可能
 - ・ 償還不能になっても民生委員の責任は求めない
- 償還期間 8ヶ月(年金4回で返済等考慮)
- 貸付限度額 10万円
- 必要書類 借用書1枚(所定の様式はなく白紙であればチラシの裏でも可)
- 利息 無し
- 貸付決定日 当日または翌日(土・日・祭でも可)

❖ 活動で工夫している点

- 貸付後も内容によっては担当委員、支援センター職員、地区社協・民児協会長等を含め今後の生活設計について検討し、安心して暮らせるよう、もう一步踏み込んだ支援にも努めている。
- それにはまず、担当委員は住民との信頼関係を築くことが最も重要であり、地域福祉の推進役として常に住民から気軽に相談が受けられる姿勢が一番大切であり求められる。

朝 倉民児協移動定例会

主催団体 ● 高知市朝倉地区民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

ともすればマンネリ化しそうな民生委員児童委員活動に新しい風を呼び込むために、児童支援部会の企画で始められました。ねらいは教育現場の現状視察や児童、生徒たちとの交流、そしてなにより、私たち民生委員児童委員ひとりひとりが井の中の蛙にならないように、遠い昔の記憶を呼び起こし、リフレッシュすることにあります。



❖ 活動目的

目的の第一は、現場の職員さんや児童、生徒さんたちに、私たち民生委員児童委員の存在やその活動内容を知って頂くことです。また、交流することによって、私たち自身も「開かれた学校づくり」の一翼を担うことになり、率先して活動することで、地域の子どもの地域のみならず、育てようという気運が盛り上がり、思っています。

❖ 活動内容

朝倉民児協の移動定例会、今年は朝倉小学校で行われました。ランチルームで校長先生による学校紹介、現況報告を受け質疑応答、それが終わると楽しい給食の時間です。給食は、各クラスに委員が2～3名ずつ配属され、小さな机、椅子で、子どもたちに混じって美味しくいただきました。お昼休みは絵本を読んであげる人、「かごめかごめ」を一緒に踊る人、各委員が充実したひと時を過ごしました。その後の掃除の時間は縦割りの班編成でしたので、1年生から6年生まで満遍なくお話しすることが出来ましたし、軽い疲労を覚えたが、子どもたちとの共同作業で心身ともにリフレッシュ。5時限目からは、二班に分かれて授業参観。大勢の参観に緊張気味の子もいれば、掃除の際に知り合った子が授業そっちのけで笑顔で手を振ってくれたり。その後、再びランチルームに戻り定例会を終えて、やっと全日程終了。4時間にわたる長丁場、ご苦労様でした。

❖ 活動で工夫している点

- 子どもは地域の宝であり、大切に育てられるべき存在です。私たちも出来るだけ子どもの目線に立ち、お互いが触れ合うことによって、より良い朝倉を目指しています。この移動定例会はそういった活動のひとつのきっかけに過ぎません。子どもたちに元気をいただいたお返しに何が出来るのか？民生委員児童委員各自の自問自答が大切だと思います。



一 一人暮らしのお年寄りにお弁当を届けて21年

主催団体高知市鴨田地区民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

高齢化社会に伴い、一人暮らしのお年寄りが年毎に増え、高齢者を取り巻く環境は、一層厳しい状況です。住み慣れた鴨田地域の中で、一人暮らしの高齢者が共に生き、安心して暮らしていくために、「今、私たちに何ができるか」「高齢者に温かい手を差し伸べる活動はないか」地域の現状を踏まえ、より良い地域づくりの第一歩として、平成元年にスタートした活動が、「お弁当宅配サービス」の始まりです。



調理手順にそって手際よく調理する様子

❖ 活動目的

一人暮らしの高齢者に「手作りのお弁当」を届けることにより、温かい心のふれ合いを大切に、信頼関係を築くことを目的としています。

鴨田地区民児協全員がお弁当作りに積極的に参加し、それぞれの人が持つ専門性を生かして取組み、併せて委員相互の連携と資質の向上を図りたいと考えています。

❖ 活動内容

「年に一度の親孝行です。食べてちょうだい。」「ありがとう、朝早くから寒かったですよ。」お年寄りからの温かいひと言に励まされ、寒さも疲れも忘れ、ほっとするひと時です。

毎年2月に恒例のお弁当作りを実施。高齢者部によって、(献立、試食会、食材の注文、調理場の清掃)等の準備が行われ、お弁当作りの2日間は、委員全員の作業となります。1日目は、午後1時から5時まで、献立に合わせて食材の下ごしらえをし、2日目は、お弁当を仕上げるために、午前7時から午後3時30分まで、300食を上回るお弁当作りに奮闘しています。対象は74歳以上の一人暮らしの高齢者ですが、年齢については毎年の検討課題です。

平成元年にスタートして21年間、委員一人一人の熱意とチームワークによって積み重ねられた活動は、鴨田民児協の大きな財産です。

❖ 活動で工夫している点

- 衛生第一を合言葉にして、手洗いの徹底、エプロン、マスク、三角布、調理用手袋の着用を重視する。食品を清潔に取り扱って配膳する工夫等アイデアを出し合いながら、安全で美味しいお弁当作りを続けている。



流れ作業による配膳の様子

広報活動啓発の推進 中学生の施設訪問交流

主催団体 ● 高知市長浜地区民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

少年・児童に対する「いじめ」「虐待」また、高齢者を狙った「ひったくり」等の被害が後を断たない。このため、地域住民に対して、少年の健全育成や防犯の予防等の認識と環境づくりの意識の高揚を図るための広報活動を推進。

核家族化の今日、子供と高齢者の触れ合う機会が少なくなったため、地域福祉活動の原点である「ふれあい」の場として、中学生と一緒に福祉施設訪問し交流を図るもの。



のぼり旗設置状況

❖ 活動目的

地域に密着した活動を推進するためには、住民の理解と協力が不可欠で大変重要です。このため、住民一人ひとりが犯罪の予防に対する認識を高めていただくため、広報活動が重要となります。よって広報活動を重点として取り組んでいます。

高齢者に接する機会が少なくなった現在、中学生に「高齢者を敬う」心を抱いてもらうための施設訪問活動。

❖ 活動内容

住民に訴える手段で効果が期待できる「のぼり旗」活動は、地区社協と協働し、毎年3~4種類計150枚を製作、平成17年から実施して今年で6年目になります。現在、広報活動を通じ、地域住民に対し「防犯意識」の構築と高揚を図ることにより、「明るく」「安心」で住みよい街づくり活動に地域全体で取り組んでいます。

従来の訪問活動は南海中学校が育てた花鉢（パンジー）を民生委員が持参し、75歳以上の一人暮らし高齢者を訪問激励していた。その後、地区内の福祉施設の増加に伴い、平成17年から地元南海中学生との「触れ合い」の場に変更、毎年3月中旬パンジー鉢が開花と同時に、中学生代表と一緒に福祉施設を訪問し、中学生が入所者を激励し交流を深めています。訪問先は、毎年5施設を選び順次実施している。

❖ 活動で工夫している点

- のぼり旗は4種製作し、その内容に応じて○学校・児童公園付近○金融機関（ATM）、○民生委員自宅付近に設置している。
- 施設訪問時、花鉢は1ヶ所にプランター4個を配布している。



施設訪問出発前の中学生と花鉢

地域の独居、寝たきり高齢者訪問事業

主催団体 ● 高知市御畳瀬地区民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

御畳瀬地区においては、人口が年々減少するとともに、住民の高齢化が顕著となっている。それに対して独居、寝たきりの高齢者が増加し、ややもすれば地域住民との付き合いを避け自宅に閉じこもり、孤独化する傾向がみられた。この傾向を少しでも改善するために始めたものである。



お花鉢

❖ 活動目的

地区住民間に相互扶助と慈しみの意識向上を図るとともに、独居、寝たきり高齢者には、安心して暮らせる住みやすい地区であることを実感してもらえることを目指すものである。

❖ 活動内容

毎年2月上旬に、民協、社協、ふれあいセンターの役員をはじめ、地区住民がふれあいセンターでお弁当を作り、そのお弁当に花の鉢を添えて対象者宅を訪問し、安否の確認や心配ごと等の相談にのるもの。

❖ 活動で工夫している点

● 手作り弁当の内容をどのようにすれば高齢者に喜ばれるか、また、寒い時期とはいえ、食中毒の心配もあり献立には特に心がけて注意している。独居、寝たきり高齢者は、日々の心配事や悩み事を自己の内に閉じ込める傾向があるので、この活動が高齢者と民生委員等との良好な関係を築く一つの好機となるように願っている。



お弁当作り



お弁当

高齢者と小学生ふれあい事業

主催団体 ● 高知市浦戸地区民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

地区の高齢化が進み、小学生の減少も著しく、高齢者の貴重な体験教訓、地区の歴史等を聞く機会も減少している。元気な小学生とのふれあいや高齢者が自分の体験を語り継ぐことで、必要とされ役に立つことに喜びを感じて、元気になる。平成11年から始めました。



❖ 活動目的

小学生が高齢者に手紙を書くことで思いやる心が育つ。

地区の各種活動、祭やイベント、津波防災活動など連帯を強める。

学校行事に多数の地区民の参加を促し、開かれた学校活動、対話、コミュニケーション活動の充実と世代間交流の推進で地域を元気にする。

❖ 活動内容

日時 毎年11月23日(勤労感謝の日)10時~12時

対象 小学生全員と地区内在住高齢者

内容 小学生から同数の高齢者に手紙を書いてもらう。配食用弁当菓子を選び注文しておく、10日前ぐらいに該当者に日程と在宅依頼の文書を配る。当日弁当購入後、各地区民生委員に届け、小学生と合流し配食する。訪問先で質問をして、いろいろとお話を聞かせてもらう。参加小学生にお菓子を配り感想を聞き解散する。

後日返信を集め学校に届ける。毎回返信100%ある。もらった手紙を読み上げ「この児は誰のお孫さんじゃろ、やさしいことを書いてくれちゅう」と喜んでくれた。資金は福祉のまちづくり事業助成金を充てました。

❖ 活動で工夫している点

● 小学校での防災学習が進み、地区調査の結果を防災マップに仕上げ、防災学習全国大会で発表し優秀と認められた。訪問配食の時、高齢者が話してくれた体験が大きな広がり役立った。

● 小学生から積極的な質問がどんどん出るように又、いろいろ答えてもらえるようにサポートする。



施設ボランティア活動 シーツ交換

主催団体 ● 高知市三里地区民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

平成9年、特別養護老人ホーム海の里が、地域に初めて開設されました。介護保険制度の前でした。

地元の施設の応援と、入居者とのふれあいができればとはじめました。



本日参加者全員です。マスクで顔がわかりません

❖ 活動目的

月1回のボランティア活動シーツ交換で入居者に気持ちよい寝具で快適な生活を過ごしていただく。また秋祭りなど、イベントにも参加し、入居者の方、施設、職員との交流を通じて、民生委員としての、介護のあり方、施設への認識をふかめる。

デイサービスも併設、地域の高齢者との交流の場にもなっています。以来12年、三里民協のボランティア活動の柱として定着しています。

❖ 活動内容

日時 毎月第一水曜日 AM9時~11時頃まで

内容 3階 14室 2階 13室 約60人のベット 下敷シーツ取替え 上布団掛入替 枕カバー取替 防水マット敷き ベット周り片付け

各ベット毎に2人ペアで作業。現状のまま気持ちよく使用できるように設置します。色々私物等ありますが、本人の利用に支障をきたさないように、汚れ等を取り除きます。

交換の時ほとんどの入居者は、ホールにいますが、自分の思いどおりにしてほしい人は指示して下さり私達もそのようにします。体が不自由なので、自分の思いどおりに出来ないところを、少しでもお手伝いできれば幸いです。

❖ 活動で工夫している点

● 背中にしわができないように、シーツをピンとはる。掛け布団の出入りの紐はベッドの上がり側でなく、反対の方向に向ける。ラバーの縫い目も重ならないようにする。

いつもありがたい笑顔が返ってきます。外部の人との交流の少ない入居者も、私たちの訪問を喜んでくださり、私たちの励みにもなります。



男性二人、息が合っています

独 居老人への年末のふれあい活動について

主催団体 ● 高知市五台山地区民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

以前は、年末に独居老人を「ふれあいセンター」にお招きして、食事や出し物等で交流を図っていたが、身体上の都合から参加者が限定されるため、自宅訪問等に切り換えることとした。

❖ 活動目的

この一年のお元気を祝うと共に、新しい年に向けて更なるご健康と地域へのご指導を願う。

❖ 活動内容

独居老人宅を訪問し、健康状態や家族のこと等を伺いながらクリスマスプレゼント（赤飯・菓子・靴下等）を手渡し、交流を深める。

独居老人宛の、民生委員手書きの年賀状を作成し、発送する。

❖ 活動で工夫している点

- 普段から月1回は独居老人宅を訪問し、体調や健康状態を伺っているため、その延長線上の年末行事として位置づけしている。
- 五台山地区社会福祉協議会と連携・協力して実施している。

高知市高須ふれあいセンター育児サークル

主催団体 ● 高知市高須地区民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

平成13年、旧高知市役所高須支所が「高須ふれあいセンター」として生まれ変わり、藤崎忠男・高須地区民生委員協議会会長がセンター長に就任しました。藤崎会長は、ふれあいセンターを様々な地域住民の集う場所にしたい、高須地域の特性に添う独自の活動を展開したいと思いました。高須地区は若い世代の多い所です。子育て中の親子が気兼ねなく参加できる場所を作れないだろうかと会長は考えました。



サンタクロースに扮した会長と、参加した親子

❖ 活動目的

高須地区は新興住宅地で、住民の多くが県内外から移り住んできた人たちです。新旧のマンションが建ち並び、高知市内でも特に通勤族の多い地域として知られています。子育て世代には核家族が多く、身近に知り合いや頼れる人もなく、育児に不安や戸惑いを抱えています。そうした子育て中の親と子どもに交流の場を提供しようと「高須ふれあいセンター育児サークル」は作られました。

❖ 活動内容

オープンから平成22年5月で満8年になります。この間、650組（のべ14,000人）以上の親子が「高須ふれあいセンター育児サークル」を利用しました。生後2ヶ月くらいの赤ちゃんから就園前の子どもを中心に、毎回10~20組の親子が参加しています。高須近辺に限らず、市外からの利用もあります。参加費は無料。毎週木曜日、午前10時から正午まで、各々好きなように過ごします。ママ同士おしゃべりして息抜きしたり情報交換したり。子どもたちは他の子と遊んだり、時にはおもちゃの取り合いになったり。スタッフは高須地区民生委員、主任児童委員が中心です。「地域ジイジ」「地域バアバ」として色々な親子を気長に温かく見守っています。クリスマスには会長がサンタクロースに扮して子どもたちにプレゼントを手渡します。

❖ 活動で工夫している点

- 万が一の時のために「全国社会福祉協議会 社協の保険（ふれあいサロン傷害補償）」に加入しています。
- 転勤で引っ越したらそれっきり、ということはありません。メールや手紙でスタッフとの交流が続いているケースもあります。



思い思いに楽しむ参加者

小 学校の朝の挨拶運動に参加して

主催団体 ● 高知市一宮地区民生委員児童委員協議会、小学校

協力団体 ● 地域高齢者

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

地域の子供達が声かけ挨拶をしてもあまり反応が見られず、この原因は、かつては見知らぬ人から声を掛けられたら注意しなさいと指導した犯罪予防の時期の流れがあり。挨拶運動を始めるには、顔を知ってもらう必要を感じ、学校の朝の挨拶運動と連携し、民生委員児童委員が学校に出向き、学校の登校口の数か所に分散して立ち、交通安全を兼ねて挨拶運動を始めた。



❖ 活動目的

地域の子供と顔見知りになる。子供と直接会うことにより実情が見え、成育環境・生活環境の問題も解る。この行事から派生して、子供と高齢独居者との交流ができれば、核家族世帯の子供には、解らないお年寄りの事を知り、また高齢者には子供と接することで、生活の活力にしてもらう。そして、民生委員児童委員も繋ぎ役として活動することで、高齢者の見守りにつなげる。また、挨拶運動からは要保護児童のチェックと、対策対応の手がかりを見つけること等。

❖ 活動内容

日時 毎月始めの一週間 午前7時40分~8時20分学

場所 学校の登校口

対象 全校生徒

内容 挨拶と声かけ、交通安全の旗振りと指導。別途「お年寄り励まし隊」行事を10月に、独居高齢者と2年生又は3年生を対象とした。高齢者宅においての生徒による物語の読み聞かせ行事を、民生委員児童委員と教員同行で取り組んでいる。要保護児童支援活動として学校と内容を協議して、できる事から実践している。

❖ 活動で工夫している点

● 地域全校区での拡大を進めているが、学校の事情により問題もあり、学校、保護者、関係機関との協議を深めていく。

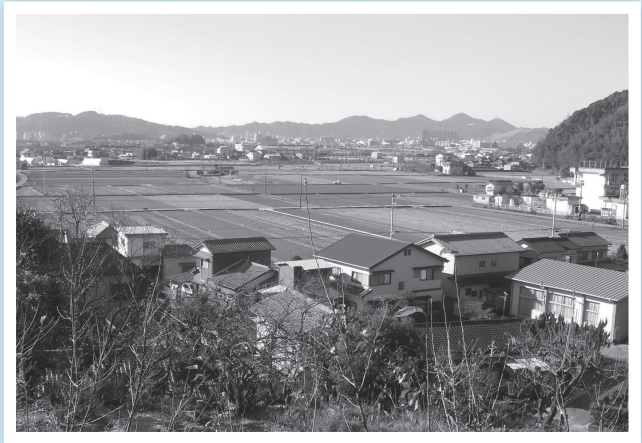


要 援護者台帳 整備

主催団体 ● 高知市布師田地区民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

独居高齢者世帯や高齢者のみの世帯等、もしもの時介助が必要と思われる世帯が増えている現状に、近い将来必ず来るであろう南海大地震への不安もあり、いざという時のために少しでも役立つことをと考え、情報整備も兼ねて作成することにしました。



布師田遠景

❖ 活動目的

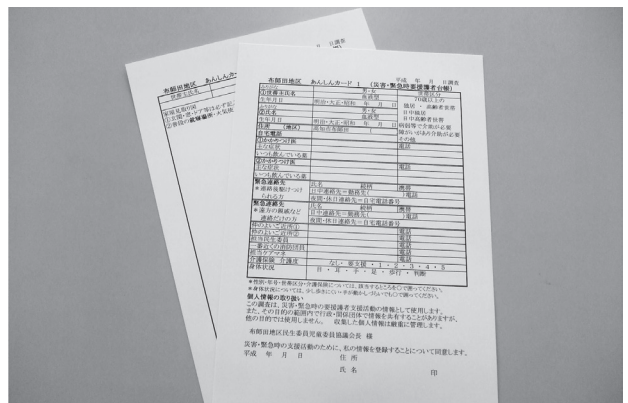
もしもの時、効率的な救助活動や連絡体制がとれること。
情報の整備によって、該当世帯の実態をつかみ、日頃の見守り活動に活かす。

❖ 活動内容

それぞれの地区担当民生委員が、おおむね 75 歳以上の高齢世帯を中心に、介助が必要と思われる家庭を消防分団員や自主防災会の役員と一緒に訪問し、「要援護者台帳」の主旨を説明して、台帳への記入を行う。後日、台帳のコピーをラミネートし該当家庭に持参し、緊急時に（救急隊等）活かせるように、冷蔵庫へマグネット等で貼っておくように依頼。

❖ 活動で工夫している点

- 個人情報の管理を徹底するため、原本は地区全体の台帳にファイルし、ふれあいセンターの書庫に保管。民協会長は全部のコピーファイルを 1 部所持。地区担当民生委員は、担当世帯のコピーファイルを 1 部所持。緊急時以外は持ち出し厳禁としている。



要援護者台帳（安心カード）

ホ ットランド秦の開催

主催団体 ● 高知市秦地区民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

高知市のヨチヨチランドの参加資格は、年に一度のカードしかなく、もう少し参加したいと思っても、行くことが出来ないと言う人々の話を聞いて、秦地区でもこの様な広ばが出来ればと思い、発案し行った。



お母さんと子どもの出会い

❖ 活動目的

地区及び高知市のお母さん、お父さんが子どものふれあい又はお母さんのふれあいの場所として、活用してもらう事を目的として行っています。

転勤等で高知に来たお母さんが、多くの友達が出来てくれる様に、また子ども同士も、同世代の子どもとよるこんで遊んでくれる交流の場所として、活動出来ればと思っています。

❖ 活動内容

日時 毎月第一水曜日 午前10時から午後12時まで

場所 秦ふれあいセンター

対象 幼児から小学校に入学するまでの子ども

参加料 無料

内容 高知市に住居のある人どなたでも

❖ 活動で工夫している点

- ホットランド秦は月一回の開催ですので、多くの方々の参加が目的です。秦地区の「ふれあいセンターだより」を二ヶ月に一回、チラシを「明るいまち」といっしょに配り参加を呼びかけております。
- また、三月のヒナまつり、五月の子どもの節句、タナバタ祭り等イベントを行うほか、高知市の元気いきがい課のご協力で保健師に参加をいただきお母さん方の育児の相談等を行っております。結果、毎月20人～30人の参加があり賑わっています。



皆でサンタクロースを囲んでクリスマス

子育てサロン「そら」

主催団体 ● 高知市初月地区民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

初月地区は人口約 16,000 人。世帯数は 6、500 の地域です。大きな団地も 2 箇所あり、若い人の町になりました。転勤の方で土地に馴染めず、子育てにも悩みを持つ方や、核家族化が進み、子育て支援の必要が出てきました。そこで初月民協の児童部は“そら”を立ち上げ、遊びの場を提供し、親同士の交流の場、憩いの場を用意しました。



サンタさんからプレゼント

❖ 活動目的

子供たちを楽しく遊ばせながら、親同士は人と人の出会いを大切に、情報交換や友達作りの出来るサロン。初月ふれあいセンターの 2 階で思い切り遊べる環境を整えました。親子の友達作りや、おばあちゃんの知恵袋で育児相談にも関わりました。多くの方に参加していただき、親子で楽しい時間を過ごすサロンにと願っております。

❖ 活動内容

● 一日の流れ

開催時間は午前 10 時から 12 時の 2 時間。好きな時間にやってきて出席表に○印を付け、名札を背中につけます。転ばないようにソックスを脱いで、自由に遊びを始めます。すべり台、ボールプール、ままごと、車、音の出る玩具、柔らかいボールなどで思い思いに遊び始めます。はいはいの赤ちゃんも好きなものを見つけて取りに行きます。

● 季節ごとの行事

二月、まめまき→袋に入ったお菓子をまきます。こどもの日→兜づくりとプレゼントをもらいます。七夕祭り→家庭へ持ち帰る笹飾りを作ります。クリスマス会→サンタの帽子作りをしてサンタからプレゼントをもらいます。

● 最後はみんなで楽しくお片付け

子供たちはお片付けも大好きです。

❖ 活動で工夫している点

- 玩具の消毒を毎回します。カーペットの乾拭きをして、清潔第一にと考えています。
- 行事の予算のやりくりが大変です。
- 不要になった玩具等を会員が持ち寄ります。



七夕の笹飾り

共に支えあうまちづくり応援団

主催団体 ● 高知市大津地区民生委員児童委員協議会

協力団体 ● 高知市大津地区社会福祉協議会・町内会連合会
● 地域リハビリテーション応援団

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

大津地区は、人口約1万人・5,000所帯ぐらいです。単純に割ると所帯当たり2名ですが、実際は単身者が多くいますし、独居老人もいます。今後、地区に老人が増えるのは間違いありません。そこで、大津地区をお年寄りや障害者・地域の大人・子供達が「安心して住みよい町」にするためには、どうすればよいか話し合い、「共に支えあうまちづくり」サポーター養成を目的に立ち上げました。



介護実習をしています

❖ 活動目的

本応援団は、高知市健康づくり課の承認する共に支えあうまちづくりサポーター・「3級ホームヘルパー」(21年度より習得を目指していません)・国の制度を利用した「認知症」サポーター・「救急救命終了証」取得者養成を第一の活動目的とし、講座修了者を地域に多く輩出することで、「思いやり」を持ち、誰にでも優しく接することが出来き、地域の人たちが共に支えあい、誰もが安心して住みよいまちづくりを目指しています。また、講座終了生達で立ち上げたボランティアの会「サンキュー会」に物心両面で応援していくことにより、活動をやすくすると同時に、活動する為我々にできる範囲の情報提供することを、第二の目的としています。

❖ 活動内容

私達は、地区の中学校に出向き「共に支えあうまちづくり」の意味や習得できる資格などについて話をしています。一般に向けては「明るい町」に募集事項や、応募用紙を折込み配布しています。そして、今まで5回講座を開き142名卒業生を輩出しました。卒業生の中には、大勢の中学生もいます。中学生は、この講座を受けることによって、お年寄りに対する見方が変わってやさしく接してくれています。また、現在94歳の高齢メンバーや現役民生委員も多くおり、彼らはそれぞれの地元で活躍してくれています。時間に余裕のある方は、「いきいき百歳体操」「大津文化祭」「始めの一步運動」「施設のいろんな催し物(夏祭り・敬老会・クリスマス等)」などに体の弱い方達の歩行補助や、車椅子の介助者として参加してくれています。「百歳体操」は毎週月曜、火曜、水曜、金曜、土曜日、大津地区各公民館や施設などで行いサポートしてます。また、お年寄りの自立を促す為、電動カーでの外出補助(慣れるまで2~4回程度)や草引き・チリだしなど簡単なお手伝いもしています。

❖ 活動で工夫している点

- 毎年養成講座を開いてますが、応募が少なくなってきており、町内会に頼み掲示板に張り出すことで応募を募っています。
- 中学校に行き講習内容や習得できる資格の内容などを話しています。
- 卒業生全員で「サンキュー会」を作り勉強会やボランティア活動をしています。



受講生募集に当たり大津中全校生に説明しています

昔遊びを楽しむ

主催団体 ● 高知市介良地区民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

昔は当たり前の事であった、お年寄りと子供
のふれあいを何とか復活させる事は出来ないか
と、学校に相談し実現。



昔の名人も、今は出来ない剣玉でした

❖ 活動目的

子供達（新入児）とお年寄りに昔の遊びを通して、触れ合って貰いたいとの趣旨です。

❖ 活動内容

毎年新入生が学校生活に慣れたころ（昨年6月17日）に地区社協・地区老人会と民協共同主催で学校行事として開催。独楽・剣玉・折り紙・お手玉・かるた・綾取り・おはじき・数え唄の八つの遊びを企画し、新入生が順次回り、それぞれ得意なお年寄りが教えて共に楽しみます。新入生はほとんどの遊びが始めてで、十二分に興味を示してくれ、中にはすぐに上達し、昔の子供をびっくりさせる子供もいます。又、お年寄りもなかなか昔通りにはいかず、子供達と競う様に楽しんでいます。

❖ 活動で工夫している点

- 上手な子、そうでない子、皆んなに楽しんで貰えるよう目配りをする事と、出来るだけ多くのお年寄りに参加していただけるよう、お土産も用意しています。



各コーナーにぎやかに盛りあがっていました

地域のあったかふれあいサロンの開催

主催団体 ● 高知市鏡地区社会福祉協議会

協力団体 ● 鏡地区民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

高知市鏡地区（旧鏡村）では、高齢化率が非常に高く、ひとり暮らしや高齢者世帯が増加する傾向が見られ始めた平成12年ごろに、寝たきりの高齢者をつくらないことを願い、自分達に出来ることから何か始めたいと地区社協を中心に、ボランティア団体、民生委員協議会が協力して、ひとり暮らしや高齢者が一同に集い生きがいを感じる事が出来る居場所づくりを目指して、取り組みを始めました。



鏡中学校の生徒を招待したクリスマス会

❖ 活動目的

運動機能を維持すること。今現在の運動機能をこれ以上低下させないように、楽しみながら運動が出来る環境づくりをする。そして、昔話や食事の話しをすることにより脳細胞の活性化を促す。特に単調になり易い食事に関しては、興味を抱かせる話題やバランスを考えた食事メニュー等、簡単で時間的にも金銭的にも負担のかからないもの等、工夫を凝らす。おやつについても同様に提供する。

❖ 活動内容

日時 毎月1回 木曜日 13:00～16:00

(8月と3月を除く)

場所 鏡中学校 3階調理室

対象 幼児から高齢者まで制限なし

参加料 100円

内容 時間内に来て、お茶を飲みながら、話しをする。(手作りのおやつでもてなす。)

❖ 活動で工夫している点

- 甘さを控えた手作りのおやつを提供する。
- 毎回違ったおやつにする。
- 12月には、クリスマス会を企画、鏡中学校の生徒を招待して、高齢者との交流を図る。



平成22年1月 来訪者の談笑風景



この日は、ぜんざいと蒸しパンのおやつでした

愛の一声運動

主催団体 ● 高知市春野地区民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

昭和 55 年頃、料理の上手な女性民生委員がひとり暮らしの高齢者に、手作りのお弁当を届け安否の確認や見守りを目的に始めました。

その頃は、女性民生委員が大変少なく、女性の活動の場が PR 出来る機会でもありました。



笑顔が一番

❖ 活動目的

高齢者の実態を把握し、日頃の活動に役立てます。

併せて、地域の皆様に民生委員児童委員の役割を知っていただきます。

❖ 活動内容

担当地区の高齢者の安否確認や見守りの戸別訪問は随時行っていますが、以下の月は民生委員児童委員全員が戸別訪問します。

5月 タオル持参で訪問

7月 洗剤持参で訪問

9月 民生委員児童委員全員が地区内の80歳以上の高齢者約1,600人を一斉訪問(敬老の日記念品持参)

11月 お菓子持参で訪問

1月 手作りの赤飯またはお弁当持参で訪問



お弁当作りは、まかいちよいて

❖ 活動で工夫している点

- お弁当やお菓子、記念品を訪問時に持参していますが、品物を届けるのが目的ではなくて民生委員児童委員の全員が必ず高齢者に会ってお話をし心を交わし、安心して暮らせるように心がけています。



お味もばっちり、今年は寅年、郷土料理の虎巻も

子育てについての交流会および講演会

主催団体 ● 土佐市民生児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

子どもの健全育成は、親・家庭だけの努力だけではとても困難な時代です。子どもの健全育成には「地域の支援」が不可欠ですが、その「地域の教育力」が弱体化しており、地域における組織や団体、地域住民が連携協力できるネットワークが一層必要となっています。そのネットワークづくりのひとつとして、「民生委員・児童委員」と「直接子育て・家庭教育に係わったり、幼稚園の後援会員、保育園の保護者会員、PTA会員と関わったりしている役員」とのネットワークづくりが喫緊の課題となっていました。



平成22年1月16日に開催された子育て支援講演会の様子

❖ 活動目的・内容

今、子どもたちを取り巻く環境が一段と厳しさを増しています。育児・家庭教育に関しても、核家族化の進行、就労環境の変化、近隣関係の希薄化等々を背景に、ゆとりのない家庭の増加、地域の教育力の低下、家庭における教育・子育ての力の低下は著しく、育児・家庭教育に対する負担が過剰となり困難性が増していることが指摘されています。

その結果、親にとっては深刻な育児不安やストレス、それに親育ちの不十分さも加わり「歪んだ」或いは不十分な子育て・家庭教育に陥り、子どもにとっては育ちにくい社会への変容に繋がり、児童虐待や子どもによる犯罪など深刻な事件に結びついているとの指摘もあります。

土佐市においても程度の差はあっても、こうした「子育て・家庭教育で家庭が抱えている課題」は、否定できない現状だと言えます。そこで、こうした課題に少しでも応えることができればと考え土佐市保育園保護者会連合会、土佐市PTA連合会のご協力を得て「子育て家庭教育講演会」開催しています。

❖ 活動で工夫している点

- 企画段階で主任児童委員だけでなく土佐市保育園保護者会連合会、土佐市PTA連合会と密接に連携して活動している。講演会の前に交流会を開催し、課題をお互い提出し合い交流会で出た意見を集約して講演会の内容に繋げています。



主任児童委員会の様子

子育て支援事業 「エンゼル訪問」

主催団体 ● いの町伊野地区民生委員児童委員協議会

協力団体 ● 社会福祉協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

「主任児童委員独自の活動を何かやりたい」との申し出により考え出された事業である。後に同一の計画が県から発表された。新しい「命」と向き合い昔のように子育てを地域で支援したい。その為には環境を整え役立つ情報の提供や相談・関連機関への連絡・親同士の交流の場の提供等子育て支援体制の充実をはかる。両親の不安が軽減され心豊かに生活できるよう応援する。



訪問品作成

❖ 活動目的

保健師と連携を取りながら、地区担当民生委員と主任児童委員が赤ちゃん誕生の家庭を訪問し、ハンドタオルのプレゼントを持参する。この時乳児を取り巻く環境等が把握できる。又、自分達の存在を知ってもらい再度家庭を訪問しやすくする。活動を理解してもらい、より身近な気持ちでアドバイスや相談に応じられるよう努力する。親子で集える子育て支援センター“ぐりぐらひろば”の施設案内も大切な目的の一つ。

❖ 活動内容

日時 主任児童委員・地区担当の民生児童委員
で話し合い決める

場所 乳児の自宅

対象 生後4ヶ月以降の乳児

内容 誕生のプレゼント用品の配布。
主任児童委員・地区の民生委員との交流を深めると共にその活動をPRする。



委員の訪問

❖ 活動で工夫している点

- 保健師訪問時、後日民生委員の訪問がある旨伝えておいてもらう。
- 子育て支援の情報提供などで安心感を与える。
- 問題発生時速やかかつ適切に関係機関と連携を持つ。
- 主任児童委員の事業として使命感を持つ。



ぐりぐらひろば

特 養の農園整備と野菜づくりボランティア

主催団体 ● いの町吾北地区民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

地元の特別養護老人ホーム「吾北荘」が、「施設内の農園（約450㎡）が荒れ放題で除草にも困っている。」ということで、農園の整備をして野菜づくりに取り組む事になりました。

当施設には、年1回、演芸等を披露して訪問活動をしています。この取り組みにより、少しでも社会貢献の幅を広げることができ、委員相互の連帯感も強まり、我々委員の活動が少しでも地域の方々に理解していただければと思っています。



さつまいもの収穫です
上段に老人ホームが少し見えています

❖ 活動目的

- 福祉施設への奉仕活動の拡充
- 年間を通じた除草などにより環境美化をはかる。
- 四季おりおりの野菜をつくり入居者に新鮮で無農薬の野菜をおいしく食べていただく。
- 入居者の内、元気な方には一緒に収穫をしてその喜びを楽しんでいただく。
- 委員各自のボランティア意識の高揚と相互の融和をはかる。

❖ 活動内容

月に1～2回、全委員に声かけして畑の除草や整備、植え付け、収穫を行います。

集まる委員は25人中半数程度ですが、それ以外でも数名の委員は度々、畑の除草や追肥等野菜の世話をしてくれます。

栽培する野菜の種類は、ジャガイモ、玉葱、えんどう、キュウリ、トウモロコシ、かぼちゃ、さつまいも、大根、白菜、カブなど様々の種類の野菜を四季を通じて効率的に育てています。

さつまいもが多く収穫できた時には、地域のグループホームやデイサービスセンターにもおすそ分けをして喜んでいただいています。また、入居者の方がエンドウの皮を喜んで剥いていた事なども聞くと、我々一同大変嬉しく活動にも益々精がでます。

❖ 活動で工夫している点

- 少しでも多くの委員が参加しやすいよう、活動日を定例会にあわせたり土・日にしています。
- 園芸部長・副部長を選任して、野菜の生育状況の報告や手入れの時期・内容について決めています。
- 野菜作り経験の委員からノウハウを学んでいます。



収穫したさつまいもを背に休憩です

一人暮らし高齢者等や子供の見守り活動

主催団体 ● いの町本川地区民生委員児童委員協議会

協力団体 ● 社会福祉協議会・行政・JA 土佐れいほく
大久保商店・県域における協定先(6社)

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

高知県山間部では、少子高齢化が急速に進み一人暮らしや高齢者夫婦世帯が年々増加している。本川地区では、その状況が特に深刻化している。本川地区内の一部には、高齢者のみの地区もあり広い山間部の日常の見守り活動には、民生委員児童委員だけでは手の届かないこともあり、民間事業者と連携し、日常の見守り活動のネットワークを広くすると共に、地域住民同士の支え合いで、誰もが住み慣れた土地で安心して暮らせる地域を目指している。



平成 21 年 1 月 26 日
JA 土佐れいほく見守り協定書締結(本川店)

❖ 活動目的

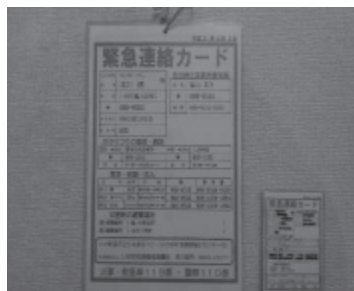
民間事業者と連携して一人暮らし高齢者の日常的な見守りを行い、日常生活での変化やもしもの時を早く発見する。

一人暮らし高齢者や高齢者世帯の日常的な見守りで、日常の状況を把握することができ災害時も迅速な対応を可能とする。

子供の通学時の声かけ見守り活動等で、通学時の安全や子育て支援を行う。

❖ 活動内容

- 県域における見守り協定の他に本川地域で JA 土佐れいほく農協、大久保商店(移動販売)と見守り協定を締結
- 地域見守り台帳の作成管理(社協)
- 緊急連絡カードの作成と配布(自宅用)(携帯用)
- 本川地区民生委員児童委員緊急連絡体制図作成月一回の変更等の確認更新
- 一人暮らし高齢者の日常の安否確認活動
- 月一回登校児童生徒への声かけ見守り活動



一人暮らし高齢者配布用
緊急連絡カード(自宅用)(携帯用)

❖ 活動で工夫している点

- 一人暮らし高齢者や高齢者世帯について月一回の定例会の歳に日常生活状況をほけん福祉課を交えて確認している。
- 一人暮らし高齢者や高齢者世帯のマップを作り移動や変更時には都度更新して緊急時に備えている。
- 民間事業者の見守り協定書に連絡系統図を添付し異常時には迅速な連絡対応ができる。
- 緊急連絡カード(携帯用)は外出先で異常発生時に本人の状況を身近な人に迅速な連絡が可能である。



定例会(毎月1回第三金曜日開催)

歳末たすけあい配分事業「赤飯配り」

主催団体 ● 仁淀川町民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

平成17年の町村合併に伴い、旧町村で実施していた歳末事業を調整し、仁淀川町民生委員児童委員協議会事業として、「赤飯配り」を実施することに決定。

自治労仁淀川町職員労働組合も活動の一環として協力いただく事になりました。



❖ 活動目的

高齢者に赤飯を配ることで、在宅で元気に過ごす活力として、楽しみにしていただくことや、この事業を通じて、民生委員の活動等を知っていただくことを目的としています。また、事情等により日頃訪問できない家庭へも顔を出すことができるので、様子伺いの機会ともなっています。

❖ 活動内容

70歳以上の独居高齢者と80歳以上の高齢者のみの世帯を対象に、民生委員が赤飯作りを行い、町職員組合の協力で、町内約900食を配達しています。

吾川、池川、仁淀の支部に分かれての実施ですが、仁淀川町民協の事業として定着してきました。

❖ 活動で工夫している点

● 赤飯配りの対象者については、調査は民生委員が行っています。この調査に合わせて、平成21年度に仁淀川町民協が作成した世帯票の見直しを行うように考えています。



福祉懇談会と見守りネットワーク

主催団体 ● 佐川町民生児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

福祉懇談会は、社協が平成12年に各部落に福祉委員を設置。それを機に見守り活動のパートナーとして情報交換や役割分担を確認して、きめ細かい見守り活動を行うねらいで取り組みました。

見守りネットワークは、民生委員らの見守り活動以外にもJAの見守り活動やふれあいサロンなど、高齢者に関わる機会が多い関係者と情報共有を行い見守り活動の連携と裾野の広がりを期待して活動を始めました。



見守りネット（1地区開催で複数のテーブルに分かれて協議。地図を中心に情報を出し合います）

❖ 活動目的

過疎化高齢化により、独居高齢者や高齢世帯など、日常生活に問題が無い場合でも、体調の急変や悪徳商法など異常事態への対応などの観点から見守りが必要である世帯が増えています。民生委員は一人で多くの世帯を受け持ち、毎日見守り活動が出来るわけではありませんので、地域の中で多くの方が同じような意識で隣近所を見守っていただけるような意識醸成を目的としています。

❖ 活動内容

地域福祉懇談会は、佐川町内を7地区に区分し、1年に1度それぞれの地区の民生委員、福祉委員、それに地域包括支援センター、社協の4者が顔をあわせて会議をしています。

まず昨年の見守り名簿をもとに福祉委員、民生委員、地域包括支援センターが近況の情報を出し合い、見守りの必要性によってABCDの4段階に判定を行い、必要な対応を検討しています。

見守りネットワークは、町内を8区分し、1年に1度それぞれの地区に関わる民生委員、福祉委員、ふれあいサロン協力員、JAにここ会、事務局として地域包括支援センター、社協が参加しています。

会合では、地区内の住宅地図を拡大したものに、各参加者が関わっている見守り対象者宅に見守り回数を記入し、互いの見守り活動の情報を共有し、抜け落ちのない見守り体制づくりを目指しています。

❖ 活動で工夫している点

●見守り活動は、どれだけやったらいいのか判断しづらいゴールのない活動ですので、それぞれの会合では、参加される方の情報が地域の見守りのために有用である、と実感していただけるように配慮しています。



福祉懇談会（民生委員、福祉委員、地域包括、社協職員が入り名簿をもとに見守り情報の確認します）

災 害時要援護者の支援活動

主催団体 ● 越知町民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

越知町は仁淀川流域にあり、集中豪雨により年1～2回避難勧告がでることもあります。又、南海大地震の発生を考えると越知町は山間部が多く、山崩れ等により孤立集落の発生が想定され、その被害は多大なものになると思われま

す。このような状態の中、自力では避難する事が困難な高齢者や障害のある方が地域で支援を受けられる体制作りが急務であると考え、この活動をスタートさせました。



調査の様子

❖ 活動目的

越知町内が広範囲に多大な被害を受けるような災害時には、行政や消防の方々だけでは町内全域には到底救助の手の届く状態ではなくなります。そこで行政、社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、その他の関係機関と協働で災害時、避難に困難な方々が地域で支援を受ける事ができるような体制を作ることを目的として活動しています。

❖ 活動内容

要援護者の台帳、マップ作りに必要な調査を行う。

平成 18・19 年度

- 各定例会において災害時の勉強会
平成 20 年度・先進地視察研修
- 模擬調査を体験するためのグループワーク
- モデル地区の選定
- モデル地区の調査の進め方等打合せ
- モデル地区の調査開始
平成 21 年度
- モデル地区の報告を受けながら町内全域調査の打合せ
- 調査時の留意点、同意書・登録申請書の記入方法、該当者の確認打合せ
- 町内全域調査開始

❖ 活動で工夫している点

- 活動に入る前に先進地への研修、定例会に講師を招きグループワーク方式等の勉強会を取り入れ本活動の重要性を理解することができた。
- 情報収集においてはモデル地区を選定し調査実態を把握し、その情報に基づき全地域への収集に入り、比較的スムーズに調査が進んでいる。



調査前の打ち合わせ会

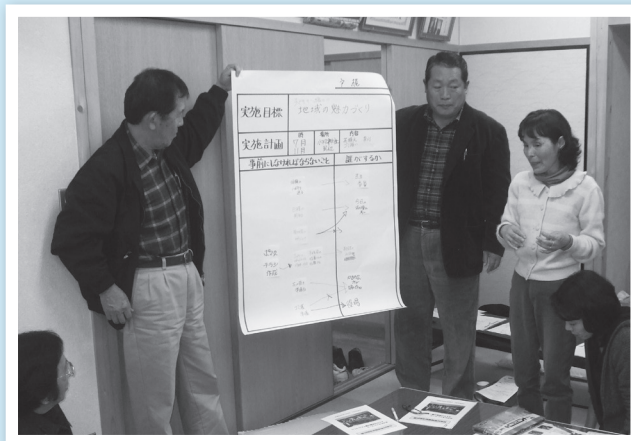
小 地域ネットワーク活動

主催団体 ● 日高村社会福祉協議会

協力団体 ● 日高村民生児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

平成3年度、日高村社協が「ふれあいのまちづくり事業」の指定を受け、それを機に地域福祉活動計画を策定するとともに、20人いる民生児童委員の地区ごとに小地域ネットワーク活動に取り組むこととなりました。



❖ 活動目的

住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、住民同士の助け合い、支え合いが必要である。住民ひとりひとりが「共に支え、共に生きる」という意識を持ち、ネットワークの輪を広げていくことを目的としています。

❖ 活動内容

小地域ネットワーク活動を活性化するための仕組みのひとつとして、年2回、村内5地区の集会所等で夜7時から9時まで「ネットワーク会議」を開催しています。

ネットワーク会議は、民生児童委員がキーパーソンとなり、福祉委員、愛の一声ボランティア（地域住民）、自治会、地域包括支援センター、社協等、さまざまな福祉団体・機関・住民で構成されています。会議前半は要支援者台帳を元にして、個別状況について話し合い、地域でできる見守り等の検討を行います。また、会議後半では、ワークショップ形式で地域福祉活動計画について、民生委員地区ごとに何ができるか話し合います。

要支援者の情報を交換するだけでなく、住民同士が地域への思いを語り、共有し、より連携していくことを確認する場となっています。

❖ 活動で工夫している点

- ネットワーク会議では民生児童委員が各テーブルの進行役となり、参加者が積極的に発言できるような雰囲気作りを大事にして、話し合いを行っています。



徘徊ネットワーク模擬訓練

主催団体 ● 須崎市吾桑地区民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

「認知症を知る」ため須崎市では平成 20 年より研修を重ね、その中で認知症高齢者を支える取り組みの一環として「徘徊高齢者見守りネットワーク」が関係機関との協働のもとにできました。しかし、認知症への知識不足や対応への戸惑いなど高齢者の生活を健全に営む上で妨げとなる課題が見受けられ、地域住民の認知症に対しての関心が高まっているところから、認知症高齢者支援「徘徊ネットワーク模擬訓練」に取り組みました。



一緒に公民館へ

❖ 活動目的

「認知症高齢者が自宅を離れ行方が分からなくなったとき、どのような支援があれば無事に発見できるのか？」を中心として、地域住民を医療・保健・福祉が緊密に連携し、必要な情報や見守り、声かけを行うことにより、切れ目のない支援を考える機会とし、認知症があっても自宅や地域で暮らしたいと思う心を理解し、一人ひとりが尊厳を持って暮らし続けられる社会の実現を目指すことを目的とする。

❖ 活動内容

徘徊認知症高齢者役とサポーター役（訓練協力者：認知症高齢者家族会・グループホーム・介護支援専門員・須崎福祉保健所・地域包括支援センター）計 22 名に対して状況の事前説明をし、徘徊者役は 3ヶ所のエリアで待機。訓練対象者（吾桑地区民児協・福祉委員等）役 30 名が 2 人 1 組で 15 チームを形成し、徘徊者の情報をグループ全員に伝え、公民館を出て 3ヶ所のエリアに別れました。郵便局でのお金の引き出しに戸惑う高齢者、スーパーで同じ品を何個もカゴに入れようとする高齢者、自宅を離れ行方不明になった高齢者をそれぞれ発見、保護し公民館に集合。そしてグループワーク、意見交換を行う。

❖ 活動で工夫している点

- 地域包括支援センターとの事前打ち合わせの中で、様々なケース等があり、画一的なアドバイスやノウハウは無いとのことであり、ぶっつけ本番で臨みました。しかし、警察・消防署・金融機関・地域等の連携、協力のもとで地域に密着した「見守り」「発見」「つなぎ」の協働体制ができ、認知症を一緒に見守る体制づくり=地域全体で幅広い参画の必要性を共通認識することが重要であると考えてます。



最後に反省会

通 学学習「かわうそ未来塾」

主催団体 ● 須崎市上分地区民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

核家族化が進み、子ども達の生活環境の変化の中で、普段学校や家庭で体験しづらい事を、家庭を離れ、違った環境で、自分たちの手でを行うことにより、子ども達の自主性や協調性が養われるのではと考え、この事業にいたった。これにより、上分地区はもともと地域と学校との繋がりがあがる地区だが、地域の方々をボランティアに迎えることで、その繋がりをよりよいものにしようと考えた。



❖ 活動目的

日常生活の場である家庭を離れ、宿泊施設である上分公民館から学校に通学し、仲間とともに勤労体験、生活体験を通して共同生活をする中で、子ども達の「生きる力」を育てる。基本的な生活習慣や自主性、協調性、忍耐力を身に付ける。また、地域のボランティアの方々との交流を通じて、子ども達と上分地域との関わりをより密にし、上分の良さを再確認するとともに、地域で子育てを行う環境づくりを進めていく。

❖ 活動内容

小学4、5年生の児童は、6泊7日の通学合宿の間、毎日決まった時間に起床し、洗濯、掃除、食事づくり、風呂焚き等を交代制で行いながら、上分公民館で寝泊りをする。その間、昼間は学校の授業の中に、折り紙教室やグランドゴルフ、昔の料理教室などを組み込んでもらい、通常の授業も行いながら、体験授業を実施している。学校での事業を終え、公民館に帰ってきた子ども達が先ず行うのは宿題。その後、係りの仕事に取り掛かる。係りの仕事を終え、各自ドラム缶風呂に入り終えたら夕食。後片付けを終えたら、毎日ではないが、天体観測やパズル遊び、防災紙芝居など、ここでも普段あまりすることの出来ない体験を盛り込んでいる。最終日には、自然の中で、カヤック体験。隔年で、上分地区を流れる新莊川と浦ノ内カヌー場で行っている。

❖ 活動で工夫している点

- 対象の子ども達の保護者の立ち入りを無くした。それにより児童が通学合宿に集中できたように感じる。ボランティアは地域の方を起用し、地域との繋がりもより深まっている。



中 土佐町の見守り体制について

主催団体 ● 中土佐町中土佐地区民生委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

高齢化の上昇とともに、一人暮らしや閉じこもりがちな高齢者、障害者の方や痴呆の方も増えてきている。また、地域の実情が民生委員のもとに集まりにくい現状も有り、孤独死等悲しい結末を迎えることがないように安心して暮らせるように地域で日々の見守りを行っていくことが必要でないか、との結論に達した。

経過 平成 14 年 3 月 北川村への視察研修

平成 15 年 2 月 葉山村への視察研修

検討委員会 7 回開催

❖ 活動目的

地域における要援護者（独り暮らし老人、高齢者世帯、障害者等）の見守り体制を築く。

❖ 活動内容

毎月の定例会で各民生委員が自分の受持ち地区の見守り対象者の状況を報告し、委員が情報を共有し、見守り体制の充実を図る。

❖ 活動で工夫している点

● 役場 担当課及び消防とも情報を共有する。

さ けなし日

主催団体 ● 中土佐町大野見地区民生委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

昭和 60 年代の始め、私達の先輩の民生児童委員の提案で、月に一回お酒を飲むのを休んで体を労ろうということから始まりました。当初は民生児童委員が中心となり、社会福祉協議会、役場住民課、教育委員会ほか各企業の協力を受け活動を立てあげました。大野見地区の人々は、お酒を飲むことによりコミュニケーションがとれ又必然的に量も多くなり、特に肝臓を悪くすることから、さけなし日（休肝日）を作ることにより日々健康に暮らせる事をねらいとしています。



❖ 活動目的

町民が老いも若きも健康で、楽しく安心して心豊かに暮らせる町作りを目的としています。

❖ 活動内容

- 名称 「さけなし日」（桃太郎旗の掲揚）
- 日時 毎月 1 回 17 日
- 対象 大野見地区全域
- 内容 酒を飲まない日をみんなに気づいてもらうため酒なし日の旗を立てる

❖ 活動で工夫している点

- 地域の人たちに気づいてもらえるよう
 - ・ 遠くから見ても気づく色
 - ・ 分かりやすい書体
 - ・ 車に乗っても歩いても気づいてもらえる場所に立てる また旗が日雨風等にさらされて破れないよう（物を大切にせず無駄を無くし、自然に気配り）・・・注意をしつつ活動しております。

七里小あったか推進員会（めだかの会）

主催団体 ● 四万十町窪川地区民生児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

七里地区においては、高齢化、少子化、過疎化等で子どもたちの教育環境が大きく変化しています。また、子どもたちの生活は、大人社会と同様あわただしいものとなり、社会性の不足、倫理観の問題、自立の遅れ、不登校等猶予すべき状況が起っています。

こうした状況の中でこそ、子どもたちの健全育成のために家庭・学校・地域社会がそれぞれの役割を果たしながら、相互に連携し、社会全体で取り組んでいくことが重要であり、三者がともに話し合える場作りや協力し合えるシステムを構築するなどして、七里の子どもたちを育てようという目的で「七里小あったか推進委員会-めだかの会-」は発足しました。



あったかバザーでの餅投げ

❖ 活動目的

学校・家庭・地域社会がそれぞれの役割を果たしながら、相互に連携し一体となって子どもたちの教育に取り組むため、あったか推進委員会(めだかの会)を設置する。

めだかの会は、学校長ほか次に掲げる者のうちから、学校長が委嘱した委員で構成する。

- (1) 保護者代表(PTA会長、副会長等若干名)
- (2) 地域活動団体の代表者 (総代会、民生委員、老人クラブ、母親委員等)
- (3) 教頭、教職員代表
- (4) 児童代表(児童会)

❖ 活動内容

● あったか推進員委員会

日時 平成21年12月10日(木)

場所 七里小 図書室

内容 学校の教育方針等の説明

子どもたちの様子、学校に対する意見交換
学校と地域との連携事業について話し合い

日時 平成22年2月17日(水)

場所 七里小 図書室

内容 本年度の取り組みの反省会

子どもたちの様子、学校に対する意見交換
学校評価についての説明
学校と地域との連携活動について

● 家族参観日の「教育講演会」

日時 6月7日(日)

場所 七里小 体育館

内容 児童・保護者・地域住民を対象にした講演会

講師:四国総合教育研究所 横川 遊
亀寿先生

● 愛校作業

日時 8月16日(日)

場所 七里小校作業

内容 児童・保護者・地域住民による学校内の掃除や修繕、木の剪定などの作業

● あったかバザー

日時 2月7日(日)

場所 七里小

内容 児童の音楽発表会、バザー(あったかバザー)、模擬店(あったか亭)の開催、もち投げ。

● クリーンキャンペーン

日時 2月23日(火)

場所 七里小校区

内容 学校、地域による地区内の清掃活動

❖ 活動で工夫している点

- 子どもたちを地域全体で育てていくために、地区住民で何が出来るかを考えながら活動を行っています。地区内にある関係機関(消防団、保育所等)にも声がけをして、より多くの方々に子どもたちと関わってもらいたいと考えています。
また、地域の方と学校が近い関係になるように学校通信を全家庭に配布して、学校からの情報提供を行い、日頃の情報交換や連携を大切にしています。

先輩から引き継いで

主催団体 ● 四万十町大正地区民生児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

昭和60年代前半、65歳以上の高齢者人口が13%を声、独居老人もみられた。その見守りと民生児童委員のPRも兼ねて、「ちらし寿司」の配布事業をするようになった。

ほぼ同じ頃、特老への訪問が話題になり、スポ少、青年団、民協が共同で、施設内で餅つきをし、それを配ることで、敬老精神を培うことになった。餅による事故が報道されるようになり、高齢者には赤飯配りに変わっている。



ちらし寿司作りの一場面です

❖ 活動内容

● 「ちらし寿司」の配布

この事業は、毎年、民生児童委員活動強化週間に行われている。今年は5月12日に実施し、80歳以上の高齢者279人にちらし寿司を配った。早朝より、四万十町老人福祉センターに集合し、手分けして作り、袋に入れて担当者がそれぞれに配る。見事なチームワークでなされた。

● 特別養護老人施設「四万十荘」への奉仕活動

以前は、役場、四万十荘、デイサービスセンターの土手の草を刈っていた。参加者の高齢化に伴い、一昨年からは、四万十荘で行われる納涼祭に合わせて、中庭の草刈りとガラス拭きを行っている。毎年定例会が終わってから実施している。(今年は7月9日に実施)尚、気持ちの「金一封」も届けている。

● スポーツ少年団との餅つきと高齢者への赤飯配布

大正地区青年団と民生児童委員の共催で、標記の事業が行われている。今回は12月19日(土)に設定されたが、当日は大雪に見舞われ、大正中央公民館の大ホールでの餅つきとなる。赤飯の配布については、道が危ないので後日行うことにした。

餅つきは、子供たちに餅になるまでの過程を一通り説明してから始めた。餅の搗きかたも2回目、3回目となると要領がよくなっていく。今年は餅切りから、丸めるまでを子供たちと保護者で行った事が評価された。赤飯作りは、新年8日の早朝より行った。80歳以上の人、288人分を作り、午前中には担当地区に配布することができた。

思わぬ送り物を手にした高齢者の顔もほころび、いろいろと話しが聞けた。



夜間パトロール

主催団体 ● 四万十町十和地区民生児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

平成7年頃に、校舎の陰や無人駅舎の陰、人気の無い所で子供達、特に高校生が集まってタバコを吸ったり、飲酒をしたりしていたという住民からの通報で、主任児童委員と補導委員が協力して始まった。翌年からは、民生委員も協力するようになった。

当時は、噂や通報があると出かけるようなことが多かった。タバコの吸殻、空き缶を集めて来る事もあった。



必需品

❖ 活動目的

地域の子供は地域で守る。犯罪を未然に防ぎ、地域から悲惨な犯罪事件が無いようにすることが目的である。

❖ 活動内容

子供達が夏休み間の1ヶ月を重点的に行う。時間は20時～22時くらいまでで、公園トイレ、校舎の陰の人目に付きにくい所は重点的に行った。夜間のため、7名～8名がグループで、必ず補導委員が1名～2名同行する。腕章をし、懐中電灯をみんなが持ってくる。特に夏祭りやいろいろなイベントへは、補導委員も同行し、主任児童委員を中心に回り活動を行う。

地域が広範囲なので、東西に分かれて車で出かける。時間を決めて集合場所に集まり、報告しあって解散する。

❖ 活動で工夫している点

- 単独にならないよう、グループ行動を心がけている。



遠いところはこの車に乗って…

夏 期、冬季「ふれあい訪問」

主催団体 ● 栲原町民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

民生児童委員は、厚生労働大臣より委嘱を受け、地域福祉の向上に努めることが使命です。行政には保健師が常駐しており、高齢者と日々のネットワークがありますが、高齢者にとって一番身近にいるのは民生児童委員であります。この2者が連携をとれば、尚一層の実情把握と見守りにつながることから、夏期と冬季の節目に訪問をするようになりました。



❖ 活動内容

まず、直近の定例民協で担当保健師と昨年の反省を踏まえて入念な打ち合わせを行います。その際に入院していないか、転出していないか、訪問されることに抵抗はないかなど、かなり個人情報に気をつけて打ち合わせを行います。訪問先と日程が決まれば、事前に葉書等で通知し、突然訪問して驚かせないように気を遣います。

保健師と民生児童委員と一緒に訪問することにより、高齢者は見守ってもらっているという安心感が生まれます。この安心、安全を与えることが、住み慣れた町で暮らし続ける要素につながっていると思っています。

❖ 活動で工夫している点

● 栲原町は、合併前の旧行政区画に区制をしいて自治活動を行っています。各区より2名の民生児童委員を選任していますが、自分の担当地区外も回ることを心がけており、自分の出身の区の実情把握にも役立っています。



住 民と一体となった「福祉パトロール」

主催団体 ● 津野町民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

合併前の東津野村では、「高齢者の暮らしを住民みんなで支える」という願いの元、昭和63年より年末に民協、行政、社協、村内関係機関、建築協会、ボランティア等がスクラムを組んで高齢者のみ世帯を訪問し、不燃ごみの回収や煙突掃除などの生活上の困りごとの解決と安否確認を行う一日パトロールを実施していました。高齢者の大きな支えになっていることを実感していた民生委員と社協では、葉山村との合併後も継続を決めました。



パトロールで訪問中
緊急時の連絡先を聞き取ったり、大事な情報伝達もします

❖ 活動目的

一つには、一人暮らし高齢者や高齢世帯の緊急時の連絡先を事前に把握し、いざという時に迅速な対応が関係機関も近隣住民も協力し合っているよう「お守りカード（緊急連絡カード）」を作成すること、また、1軒1軒民生委員と近隣ボランティアや関係機関と一緒に訪問することで、日常的な支援や見守りが連携したものになることを目的としています。

❖ 活動内容

事前に、民生児童委員が確認した対象者のお宅に訪問するのは、民生児童委員、福祉委員、地区長、ボランティア、行政職員、保健師、包括支援センター職員、社協職員が1チーム2～3名で、5軒ほど訪問させていただきます。

事前に訪問のことを連絡しているので、ほとんどの方は、自宅で待ってくださっています。30分ほどで終わるはずの聞き取りも1時間、それ以上にかかってしまうことも多く、いろんな話を織り交ぜながら、和やかに調査活動ができます。参加したボランティアの人たちは、「もっと普段でも話しにきてあげないと…」という感想をもたれています。

パトロールで得た個人情報、「見守り台帳」化され、高齢者宅には「お守りカード」を民生児童委員が配布します。その他の課題は、関係機関による「安心安全ネットワーク会議」で共有され、対応を考えていきます。

❖ 活動で工夫している点

- パトロールは、2日間で終わりますが、事前確認や事後のフォロー調査が必要ですし、対象者となる高齢者自身に安心をあたえることや聞き取った課題を真剣に受け止めることが重要です。



福祉パトロール前のオリエンテーション
多くの関係者、ボランティアが参画します。

民児協だより「やぶつばき」の発行～心のつながりを求めて

主催団体 ● 四万十市中村地区民生委員児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

本民児協が組織的に強化され、現在の活動形態が確立された頃、民生委員制度 80 周年を記念して、社協事務局の中庭にやぶつばきの植樹と委員直筆の記念碑を建立しました。委員同士の活動の様子や日頃考えていることを交流しあってはどうかという声上がり、平成 11 年 6 月に創刊されました。創刊号は A4 版 2 ページの全部手書きで、現在の小椋会長の創刊の言葉と民児協役員会の様子を書いたものでした。



やぶつばきと 80 周年記念碑

❖ 活動目的

委員同志の交流、連絡調整を主目的に民児協からの連絡、役員会や専門部会からの報告、予定定行事の記事はもちろん、地区活動の中で学んだことや悩んでいることを情報交換したり、参加した研修会や講習会で学習してきたことの報告もあります。それだけでは内容が堅苦しくなるので、随筆、短歌、詩、川柳、替え歌など何でもいいことにしています。

❖ 活動内容

2 ヶ月に 1 回の発行ですが、編集委員は役員会を構成している 22 名を 6 つの班に分けて、交替でしています。原稿が集まらない時もありますが、そんな時は編集委員が書きます。2 年前に 90 周年記念として、創刊号から 50 号までを 1 冊にまとめて出版しました。その時の委員や活動の様子が読み取れてとても意義深いものになりました。当時の委員に贈りましたら、大変喜んでいただきました。

最近はパソコンが使える委員が増えていますので、自分が打った文章がそのまま原稿に使われることが多くなっています。温かさを感じる手書きの原稿が出てくると、委員全員が年に 1 回投稿して欲しいと願っています。現在 64 号までできましたが、途絶えることなく次の 100 周年記念号をめざして続けていきます。



編集にあたる担当民生児童委員や主任児童委員

訪問サービスで地域の見守り

主催団体 ● 四万十市西土佐地区民生児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

昭和62年に全国一の配食サービス(365日毎日給食)を実施していた福岡県春日市に視察に行った。視察から帰り西土佐でも給食サービスができないかと検討委員会を立ち上げ、何度も会を持って検討した。しかし、食事を作る場所の問題、広範囲の西土佐をどのように配るかという問題等で行き詰まり、結局は民協の「訪問サービス」という形で残し、地域の見守り活動とすることになる。

今ほど福祉サービスが行き届いていない時代に、高齢者や障害者の方を訪問する際の手みやげ代わりに、そしてまた、一回でも食事の準備が楽になるようにとお弁当を作り持参して、訪問することになった。



❖ 活動目的

地域の中で気になる世帯が増え、日頃訪問したいと思いつながらなかなか訪問できないことが多い。しかし、弁当を手みやげとすることで訪問しやすくなる。地域の中の見守りを大きな目的としている。

❖ 活動内容

前もって民生委員全員に文書で対象者名簿を出してもらい、事務局で人数をまとめ、現在は150名ほどの対象者である。民生委員がそれぞれ受け持ち地区内の対象者宅を訪問する。対象者は特に年齢や身体状況だけで判断するのではなく、民生委員の考えで「訪問したい世帯」「気になる世帯」「一人暮らし」「高齢世帯」「障害者」「引きこもり」「介護者」等選出する。当日四万十市保健センターの調理室に女性部が集合し、炊き込みご飯や蒸しパン等を作り弁当にし、お手紙をつけて地域ごとに仕分ける。手紙には、「お元気ですか。今日は炊き込みご飯を作りました。どうか今日中にお召しあがりください」と書き包装する。昼前には男性が弁当を取りに来て、訪問に出かける。女性部は調理の間や、調理後にみんなで昼食を食べながら、民生委員活動での悩みや、困ったこと等を話し合う。昼食が済んで女性部も訪問に出発。訪問して感じたことや、問題点に気づいたときは事務局に報告し、今後のことを話したりする。

❖ 活動で工夫している点

- 特に衛生面に気をつける。その日のうちに1回で残さず食べられる量にする。
- 調理器具の持ち寄り。炊飯器は3升炊きや4升炊きを持ち寄り、時間を効率よく使う。蒸し器が多く必要な時も、使い慣れたものを持ち寄る。
- 留守の場合は弁当を置かない。食べるものなので万が一の場合を考えて、後からもう一度訪問するか、別の対象者を選んで持って行ってあげる。
- 前日の下ごしらえが大切。事務局が前日できることについては準備する。(米を計って洗って打ち上げておく、材料を切っておけるものは切る等)



ひ とり暮らし高齢者「ふれあいの集い」

主催団体 ● 宿毛市民生児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

普段外出の機会が少ないひとり暮らしの高齢者に、民生委員として何かできることはないかということで、ひとり暮らし高齢者が集まり、食事や余興を楽しむ中で、仲間づくりや生きがいづくりをしてもらおうと今から約25年前、女性部が手料理を振る舞い始めたのがきっかけでした。



沖の島での楽しい余興に思わず笑顔で拍手

❖ 活動目的

同じ地区の同じひとり暮らしの方々と顔を合わせ会話し、悩みや苦勞を分かち合い、一緒に余興を楽しむことでまた新たな出会いも生まれ、輪が広がり、明日への生きる糧としていただくことを目的としています。

❖ 活動内容

宿毛市を8地区に分け、毎年4地区ずつ社会福祉協議会と共同で開催しています。人数の少ない地域は他の地区と合同で行うこともあり、毎回50人以上の参加者で賑わっています。

開催場所や内容は担当地区の民生委員同士で話し合ったり、地区の高齢者にアンケートを取ったりしながら決定しています。内容はそれぞれの地区で工夫を凝らし、参加者も一緒に楽しめる内容を心掛けています。また、宿毛市は高知県で唯一島（沖の島）があり、沖の島での開催時は外部から講師を招いて、普段では見られない出し物を楽しんでもらっています。

❖ 活動で工夫している点

- 毎回同じような内容ではなく、開催場所や内容には工夫を凝らし、食事内容もできるだけ豪華にして、参加者の皆さんに喜んでもらい、次回もみんな参加してもらえよう心掛けています。



沖の島を離れる際は必ずこのような見送りが…

地域の子供を守ろう！

主催団体 ● 土佐清水市民生委員児童委員協議会・清水西部地区

❁ 活動を始めたきっかけ・ねらい

- ・ 地域の子供を守る
- ・ 朝夕の挨拶運動の一環
- ・ 野外の集団暴行の防止
- ・ 犯罪や非行の防止
- ・ いじめや虐待の防止
- ・ 登校拒否の早期発見

以上の観点から、自転車でパトロールするチャリパト隊を結成し、児童を中心に地域の見守り活動を行っている。



チャリパト隊を結成

❁ 活動目的

- ・ 地域の子どもと顔見知りになり、何事も相談できる民生委員をみんなに知って載きたい。
- ・ 児童が安心して登下校ができる地域、町づくりをしたい。
- ・ チャリパト(自転車でのパトロール)は、車の入らない場所でもスイスイと入れる。
- ・ 児童に会うとすぐ止まって話ができるから便利。

活動を開始して以来子どもとより一層親しく声かけが気軽に出来て親からも喜んでくださっていてやりがいもある。

❁ 活動内容

日時 毎週水曜日（生徒の放課後）
午後 2 時 ~4 時前後

場所 清水小・中学校区全域
(自転車移動できる範囲)
(公園などの遊び場所、港付近等)

対象 全生徒（小 400 人・中 170 人）

❁ 活動で工夫している点

- 緑色のジャンパーを着用し「パトロール用」自転車で巡回
- 清水西部地区 20 人を 5 班に分けスケジュール表を作成し、当番制でスムーズに活動できるようにしている。
- 年間を通しての活動なので、「無理せずに地域の子どもたちを見守ろうね」という気持ちで取り組んでいます。



自転車で地域を回る様子



おそろいの格好でパトロール

ひとり暮らし高齢者への見守り・声かけ配食便

主催団体 ● 黒潮町大方地区民生児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

地域の中で、支援を必要としている世帯の状況を把握することは、民生委員の重要な役割であり、要援護者を日常的に見守っていくことが必要とされる中、町社協が行なっている『見守りネットワーク事業』の配食ボランティアの担い手として、民生委員が関わっていくことが最良であり、民生委員の活動にもつながると考え始めました。



❖ 活動目的

民生委員として、外出の機会が少ない担当区域内の「ひとり暮らし世帯」を把握し、配食による定期的な訪問により状況の変化等を察知し、状況に応じ隣近所や関係機関の協力を得ながらその後の対応につなげ、「見守り・声かけ」により「安心・安全」を届けるのが目的です。

❖ 活動内容

当地区民児協では、見守り支援や食生活の支援体制を兼ねた活動の一環として、調理ボランティアと協力体制の下で「独居高齢者・高齢者夫婦世帯・障がい者世帯」等々民生児童委員や福祉関係機関で連携し、必要性に応じた世帯に対して、毎週水曜日の昼食を約50名に年間50回、2,500食を配食しています。又、高齢者を取巻く状況は常に変化しており、地域の情報を共有しながら町社協と連携を図り、支援の必要性に応じた訪問活動をしています。

調理・配食ボランティアに関わることで、毎週水曜日の事務所内は民生委員と社協職員の情報交換の場となっています。

❖ 活動で工夫している点

- 話し相手もなく、孤独になりがちな高齢者に対し、こちらから問いかけをしながら話を聞き、心の通じ合う、よき相談相手となるよう心がけています。



独り暮らし見守り活動(旧正月配食行事)

主催団体 ● 黒潮町佐賀地区民生児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

「民生委員の日」の活動として、20年前頃から町所有の山にある梅・竹の子・つわなどを採取・加工し、福祉まつり等で販売するなどして資金を作り、旧正月に餅つきをして町内の独り暮らしの高齢者や、施設利用者に配る「旧正月配食行事」としてスタートしました。



施設利用者にも大変喜ばれました

❖ 活動目的

独り暮らしの高齢者や、施設利用者との交流を目的としています。さらに、地域との交流を深める機会となり、地域での民生児童委員活動がスムーズに行えることを目的としています。

❖ 活動内容

受け持ち地区の民生委員が75歳以上の独り暮らし高齢者を事前に調査し、「餅」は喉につまらせる心配があるからと、平成元年より高齢者が食べやすい赤飯やブリの塩焼き・数の子・煮物・果物などを盛り込んだ「おせち料理」に変更して、旧正月の夕食用として配っています。資金源となっていた山菜販売は、山が荒れ果て採取困難となり、当初は民生委員が個人で1,000円負担をして行っていたが、現在では民生委員の活動費の中で行っています。「民生委員の日」の活動としては、施設へ鉢花を届け、花壇の手入れと民生委員発足記念植樹をした周囲の草刈の奉仕活動を行っています。

❖ 活動で工夫している点

- 民生委員全員が参加出来るよう早めに日程調整をし、自分たちで高齢者向けの食べやすい料理を献立、前日から準備をして、当日スムーズに調理・配食が出来るよう努力しています。



美味しい「おせち料理」ができました

町の困りごと/お助けマン

主催団体 ● 大月町民生児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

定例会で、地域での活動報告を行っていた際に、高齢者世帯で、雨漏りや庭木が茂ってしまい、生活に困っている人が多いが、委員一人では、十分な支援ができない等の意見が出たことをきっかけに、町内の高齢者世帯の状況調査を行った結果、困りごとを抱えた方が大勢いた。そのため、即、町民児協で組織し、高齢者になっても、生活環境の心配を取り除き、安心して、我が家に住み続けていただくことを目的に、まちの困りごと・お助けマン部隊を結成した。



玄関引き戸 / 戸車の散り替え

❖ 活動目的

高齢者世帯の住居は過半数が老朽化し、不自由や不安を抱えて生活されている。そのため、地域で安心して、我が家に住み続けることができる生活環境を整えることを目的にする。

又、担当地区を超えて、委員間で助け合いを行うことで、委員相互の連携や情報交換を行い、充実した地区活動に繋げる。

❖ 活動内容

民協の定例会で「町の困りごと / お助けマン」の結成と地区住民への周知を呼び掛けた。

各地区から、お助けマンへの要請があがると、担当地区の委員を中心に各委員の持つ技術や得意分野によって、メンバー構成をし、日程調整をした後にできるだけ早く対応するようにしている。

雨漏りの修理・庭木の伐採・傾聴ボランティア
四季の花々の植え替え等ゆとりのある生活を支援
子育て支援（園児の送迎やふれあいサロンに参加し地域とのかかわりを支援）

❖ 活動で工夫している点

● 担当地区の委員を中心にするが、委員 29 名の得意分野を活用することで、委員の得意な技術が発揮できる。又、お茶を飲みながら、話をする内に新たな問題発見に繋げている。



花畑の草引き

安全・安心の村づくり活動

主催団体 ● 三原村民生児童委員協議会

❖ 活動を始めたきっかけ・ねらい

平成6年から設けられた主任児童委員の活動が十分にできていなかったため、子どもたちの交通安全と声かけ（あいさつ）運動を、県民交通安全の日と主任児童委員で取り組んでいたものを、民生委員児童委員全員の取り組みにした。



小学校児童会のあいさつ運動といっしょに

❖ 活動目的

- 子どもたちや村民が安全で楽しく暮らせる環境づくり。
- 子どもたち一人ひとりと顔見知りになる。
- 民生委員児童委員の活動を地域の皆さんに知ってもらう。

❖ 活動内容

- 県民交通安全の日、春・秋の交通安全運動週間中の街頭指導と声かけ。
- 月の第2金曜、第3木曜の安全パトロール
- 村の防災無線による、地域の皆さんへの下校時の子どもたちの見守りのお願い。(小学校児童が放送)

❖ 活動で工夫している点

- 街頭指導には、学校の先生にも協力していただいているため、民生委員児童委員と先生方の情報交換の場となり、気にかかる子どもたちの指導として役立っている。



高知県民生委員児童委員大会 記録

● 資料：大会開催要項 ●

開催期日

- | | | |
|-------|---------------|----------------|
| ●第1回 | 高知県民生委員児童委員大会 | 平成12年11月16日(木) |
| ●第2回 | 高知県民生委員児童委員大会 | 平成14年5月14日(火) |
| ●第3回 | 高知県民生委員児童委員大会 | 平成15年5月13日(火) |
| ●第4回 | 高知県民生委員児童委員大会 | 各ブロックで分散して開催。 |
| | (資料収録なし) | |
| ●第5回 | 高知県民生委員児童委員大会 | 平成17年5月18日(水) |
| ●第6回 | 高知県民生委員児童委員大会 | 平成18年5月13日(土) |
| ●第7回 | 高知県民生委員児童委員大会 | 平成19年5月12日(土) |
| ●第8回 | 高知県民生委員児童委員大会 | 平成20年5月17日(土) |
| ●第9回 | 高知県民生委員児童委員大会 | 平成21年5月16日(土) |
| ●第10回 | 高知県民生委員児童委員大会 | 平成22年5月12日(水) |



高知県民生委員児童委員大会開催要綱

～児童委員活動強化のために～

●1 趣旨

社会福祉基礎構造改革の一環として成立した社会福祉法を中心に社会福祉の新しい取り組みがすすめられ、民生委員法、児童福祉法の一部が改正されました。民生委員児童委員は、日常的に地域での相談援助活動を推進し、住民の立場に立って活動することが求められています。

このような状況を踏まえ、第1回高知県民生委員児童委員大会は児童委員活動を強化することを目的に開催します。

●2主催 高知県民生委員児童委員協議会連合会・高知県社会福祉協議会・高知県共同募金会

●3後援 高知県

●4期日 平成12年11月16日(木)

●5会場 高知県立ふくし交流プラザ 2F 多目的ホール
高知市朝倉戊 375-1 TEL 088-844-9054 (高知県社協)

●6参加者 ——

●7日程

- 9:30～10:00 受付
民生委員の歌「花咲く郷土」歌唱指導
- 10:00～10:40 開会式
主催者挨拶 高知県民生委員児童委員協議会連合会会長
来賓挨拶 高知県知事
民生委員児童委員信条朗読
- 10:40～12:00 基調報告
「社会福祉基礎構造改革と民生委員児童委員活動」
全国民生委員児童委員連合会会長 光田 鈔
- 12:00～13:00 昼食・休憩
- 13:00～13:10 共同募金運動について 高知県共同募金会
- 13:10～13:30 児童委員専門部会報告
- 13:30～15:15 記念講演
「子どもの人権擁護と児童委員活動のネットワークづくり」
東京都子どもの人権専門委員 武田 範子 氏
- 15:15～15:30 閉会式
大会アピール
民生委員の歌「花咲く郷土」斉唱
- 15:30 閉会

●1 趣旨

民生委員法並びに児童福祉法の改正においては、住民の立場に立った相談・援助活動の推進や社会福祉の増進のための役割が位置づけられました。

また、民生委員法制定から50年以上の経過や社会福祉法の改正等、新たな活動の転換期を迎えた今日、これからの民生委員児童委員活動のあり方についての研究協議、そして、個々の活動を支える民生委員児童委員協議会の組織体制等の強化も重要な取り組みとなっています。

このような状況下、本大会は民生委員児童委員活動とその体制の一層の充実強化とともに地域支援活動の拡充を目的に開催します。

●2 主催 高知県民生委員児童委員協議会・高知県社会福祉協議会・高知県共同募金会

●3 後援 高知県

●4 期日 平成14年5月14日(火)

●5 会場 高知県立ふくし交流プラザ 2F 多目的ホール
高知市朝倉戊 375-1 TEL 088-844-9054 (高知県社協)

●6 参加者 500名

●7 日程

9:30～10:00 受付

10:00～10:25 開会式

主催者挨拶 高知県民生委員児童委員協議会連合会会長

高知県社会福祉協議会会長

来賓祝辞 高知県出納長

民生委員児童委員信条朗読

10:25～10:50 厚生労働大臣特別表彰伝達式

10:55～12:10 基調講演

「これからの民生委員児童委員活動について」

明治学院大学社会学部社会福祉学科 北川 清一 教授

12:10～13:10 昼食・休憩

13:10～13:20 共同募金運動について 高知県共同募金会

13:20～15:15 パネルディスカッション

「児童委員活動にみる組織のあり方について」

コーディネーター

高知新聞社社会部副部長 石川 浩之 氏

パネラー

日高村民生委員児童委員 畠山 茂治(有害自動販売機の撤去に向けて)

佐川町主任児童委員 井上 和江(佐川子どもとあゆむ会の活動について)

土佐清水市主任児童委員 酒井 史(ほっとネットしみずの活動について)

高知県民生委員児童委員協議会連合会 副会長 鈴木 美津子(こども支援について)

15:20～15:25 大会アピール

15:25～15:30 民生委員の歌「花咲く郷土」斉唱

15:30～15:40 閉会式



高知県民生委員児童委員大会開催要綱

～保健・教育との連携強化による
民生委員児童委員 活動のよりよい展開を目指して～

●1 趣旨

個人の尊厳を基本として自身に合った福祉サービスを契約で利用する「介護保険制度」を始まりとして、その利用援助サービスの充実、そして本年度の「支援費制度」の施行など、社会福祉基礎構造改革は着実に進展をしています。

また、市町村での「地域福祉計画」、県段階での「地域福祉支援計画」の策定も施行され、的確な地域の状況把握とその計画実施による地域福祉の向上も促進されます。

そのような中、民生委員児童委員においては、県下各地域を細分化したそれぞれの担当区域を持ち、その役割は民生委員法で定められています住民の方々への福祉サービス利用支援や福祉事務所等関係行政機関への協力はもとより、市町村社会福祉協議会のみならず保健・教育・福祉専門ボランティア組織といった各種の活動と地域ニーズとのコーディネートによる住民福祉の増進も求められています。

高齢過疎化の進行や市町村合併が推進される中で、県下の民生委員児童委員が一堂に会する本大会は、住民の心身の健康増進への取り組みや教育と児童の現状理解を深めるとともに、様々な事業との連携や調整の重要性を認識し、これからの活動の展開と連携強化の意識の高揚を図ることを目的に開催します。

●2主催 高知県民生委員児童委員協議会連合会・高知県社会福祉協議会・高知県共同募金会

●3後援 高知県

●4期日 平成15年5月13日(火)

●5会場 高知県立県民文化ホール オレンジホール
高知市本町4丁目3-30 TEL088-824-5321

●6参加者 約900名

●7日程

9:15～10:00 受付

10:00～10:35 開会式

主催挨拶 高知県民生委員児童委員協議会連合会会長

高知県社会福祉協議会会長

来賓祝辞 高知県知事

厚生労働大臣特別表彰受賞者の紹介

民生委員児童委員信条朗読

10:35～10:40 休憩

10:40～11:50 講演Ⅰ

「地域住民の健康増進とこれからの取り組み」～「地域で普通に暮らす」ために～

高知市保健所所長 植田 和子 先生(高知市健康福祉部健康推進課担当理事)

11:50～13:00 昼食(高知会館・三翠園)

13:00～13:25 共同募金活動について

高知県共同募金会 常務理事 島内 幸洋

13:25～13:30 休憩

13:30～14:45 講演Ⅱ

「開かれた学校づくり」の理解と今求められる子どもへの支援

日本福祉大学 社会福祉学部教授 池谷 壽夫 先生

14:45～14:50 準備・休憩

14:50～15:00 大会アピール

15:00～15:20 閉会式

民生委員の歌「花咲く郷土」斉唱

閉会挨拶 高知県民生委員児童委員協議会連合会副会長



高知県民生委員児童委員大会開催要綱

～民生委員児童委員活動充実のために～

●1 趣旨

近年、台風や地震などの自然災害が相次ぎ、国民の防災意識が今までになく高まっています。また地域では、子どもや高齢者への虐待の深刻化にも大きな関心が寄せられています。災害への備えや地域の課題に取り組んでいくには、地域で暮らす人々のつながりが重要となります。人間関係が希薄になっている今日、あらためて地域住民が皆で支え合う助け合う社会を築いていく必要があります。

民生委員・児童委員は、災害時の支援活動や子ども虐待防止活動、障害者の地域支援等に大きな役割を果たしてきました。今後も住民に最も近い地域福祉の担い手として長年取り組んできた生活支援活動をさらに充実させ、すべての住民が安心して生き生き暮らせる豊かな地域福祉社会づくりを「常に住民の立場に立って」すすめていく必要があります。

本大会は関係機関が連携を図ることによって新たなネットワークづくりを探り「地域で支え合うしくみづくり」を構築するとともに、民生委員児童委員活動の一層の充実を図ることを目的に開催します。

●2 主催

高知県民生委員児童委員協議会連合会

●3 後援

高知県・高知県社会福祉協議会・高知県共同募金会

●4 期日

平成17年5月18日(水)

●5 会場

高知県立ふくし交流プラザ 2F 多目的ホール
高知市朝倉戊 375-1 TEL:088-844-4600 (高知県社協)

●6 参加者

500名

●7 日程

- 9:30～10:00 受付
- 10:00～10:20 開会式
主催者挨拶 高知県民生委員児童委員協議会連合会会長
来賓挨拶 高知県知事
高知県社会福祉協議会会長
民生委員児童委員信条朗読
- 10:20～10:35 民生委員の歌「花咲く郷土」歌唱指導
- 10:35～10:40 民生委員の歌「花咲く郷土」斉唱
- 10:40～10:50 共同募金運動について
- 10:50～11:50 講演
「地域福祉の推進と民生委員児童委員の活躍」
高知女子大学社会福祉学部助教授 玉里 恵美子
- 11:50～12:50 昼食・休憩
- 12:50～13:35 活動報告
北川村民生児童委員協議会 西岡 和
土佐清水市民生児童委員協議会 小林 正伸
- 13:35～13:50 休憩
- 13:50～15:20 ビデオ放映・シンポジウム
ビデオ放映 : 元気です! 高知の民生委員児童委員
シンポジウム: 「地域で支え合うしくみづくり」～新たなネットワークづくりを探る～
高知県知事 橋本 大二郎
高知県社会福祉協議会連合会 会長 島田 一夫
高知県民生委員児童委員協議会連合会 会長 小椋 茂昭
コーディネーター
高知女子大学社会福祉学部 助教授 玉里 恵理子
- 15:20～15:30 閉会式
大会アピール
閉会挨拶

● 1 趣旨

平成18年4月1日から障害者自立支援法、高齢者虐待防止法が新たに施行され、また介護保険法が改正されるなど、福祉を取り巻く状況の変化があらわれてきています。

一方、地域においては、高齢者の人権と生活をおびやかす問題や子どもが犯罪に巻き込まれる事件が多発するなど、さまざまな支援を必要とする住民へのきめ細かな相談・支援活動が必要となっております。

民生委員・児童委員は、住民に最も近い地域福祉の担い手として生活支援活動に長年取り組んできました。このことをさらに充実させ、「常に住民の立場に立って」すべての住民が安心して生き生き暮らせる豊かな地域福祉社会づくりをすすめていく必要があります。

本大会は関係機関が連携を図ることによって新たなネットワークづくりを探り「地域で支え合うしくみづくり」を構築するとともに、民生委員児童委員活動の一層の充実を図ることを目的に開催します。

● 2 主催 高知県民生委員児童委員協議会連合会

● 3 後援 高知県・高知県社会福祉協議会・高知県共同募金会

● 4 期日 平成18年5月13日（土）

● 5 会場 高知県立ふくし交流プラザ 2F 多目的ホール
高知市朝倉戊 375-1 TEL 088-844-4600（高知県社協）

● 6 参加者 500名

● 7 日程

9:30～10:00 受付

10:00～10:30 開会式

主催者挨拶 高知県民生委員児童委員協議会連合会会長

来賓挨拶 高知県知事

高知県社会福祉協議会会長

来賓紹介 全国社会福祉協議会民生部長

民生委員児童委員信条朗読

10:35～10:40 民生委員の歌「花咲く郷土」斉唱

10:40～10:50 共同募金について

10:50～11:50 活動報告

「地域の支え合いづくり」

土佐町民生委員児童委員協議会会長 和田 富雄

高知市布師田地区民生委員児童委員協議会 主任児童委員 徳弘 朋子

11:50～13:00 昼食・休憩

13:00～14:30 講演

「地域福祉の推進と民生委員児童委員活動」

全国社会福祉協議会民生部長 山田 宣廣

14:30～14:35 大会アピール

14:35～14:40 閉会式



高知県民生委員児童委員大会開催要綱

～民生委員児童委員活動充実のために～

●1 趣旨

平成19年は民生委員制度創設90周年を迎えます。この記念すべき時に「広げよう 地域に根ざした 思いやり」をスローガンに、民生委員・児童委員、関係機関が連携し、地域福祉活動を一層推進するとともに、「災害時一人も見逃さない運動」を更に促進することによって災害に備えた取り組みを充実し、また、これを契機として新たなネットワークづくりを探るなど、民生委員児童委員活動の一層の充実を図ることを目的に開催します。

- 2主催 高知県民生委員児童委員協議会連合会
- 3後援 高知県・高知県社会福祉協議会・高知県共同募金会
- 4期日 平成19年5月12日(土)
- 5会場 高知県立ふくし交流プラザ 2F 多目的ホール
高知市朝倉戊 375-1 TEL 088-844-4600 (高知県社協)

●6参加者 500名

●7日程

- 9:30～9:55 受付
- 10:00～ 開会
主催者挨拶 高知県民生委員児童委員協議会連合会長
- 10:10～11:00 活動報告
室戸市民生委員児童委員協議会(演劇「姥捨」)
- 11:00～11:15 民生委員児童委員信条朗読
民生委員の歌「花吹く郷土」斉唱
- 11:15～11:45 活動報告
「地域での支えあい活動の重要性とそれを担う民生・児童委員の役割」
香美市土佐山田町 民生委員児童委員 鍵山 隆司
- 11:45～12:10 来賓挨拶
高知県知事
高知県社会福祉協議会長
高知新聞販売所高新会会長
- 12:10～13:00 昼食・休憩
- 13:00～14:30 講演
「民生委員・児童委員のこれから～期待される地域の頼り人～」
高崎健康福祉大学保健福祉学科 准教授 金井 敏
- 14:30～14:35 大会アピール
- 14:35～14:40 閉会式

● 1 趣旨

昨年は民生委員制度創設90周年迎え、100周年に向けて活動強化方策が策定され、民生委員・児童委員活動の方向性と取り組むべき内容が示されました。

平成20年は、この記念すべき100周年に向け、「安心して住み続けることのできる地域社会づくり」「地域社会での孤立・孤独をなくす活動」「児童虐待や犯罪被害などから子どもを守る活動」を推進するとともに、近く起こるであろう南海地震等の災害に備えるために「民生委員・児童委員発 災害時一人も見逃さない運動」を更に促進していく必要があります。

本大会は関係機関・民間事業者等が連携を図ることによって新たなネットワークづくりを探り、「ともに支え合う住民運動のしくみづくり」を構築するとともに、民生委員児童委員活動の一層の充実を図ることを目的に開催します。

- 2 主催 高知県民生委員児童委員協議会連合会
- 3 後援 高知県・高知県社会福祉協議会・高知県共同募金会
- 4 期日 平成20年5月17日(土)
- 5 会場 高知県立ふくし交流プラザ 2F 多目的ホール
高知市朝倉戊 375-1 TEL 088-844-9054 (高知県社協)

- 6 参加者 500名

● 7 日程

- 9:20～9:55 受付
- 10:00～ 開会
主催者挨拶 高知県民生委員児童委員協議会連合会会長
- 10:20～10:45 来賓祝辞
高知県知事
高知県社会福祉協議会長
こうち生活協同組合理事長
- 10:45～11:00 民生委員児童委員信条朗読
民生委員の歌「花咲く郷土」斉唱
- 11:00～12:00 活動発表・報告
「佐川町地域支援ネットワーク」の取り組み
佐川町 主任児童委員 井上 和江
児童相談所の相談援助活動と民生委員・児童委員との連携
高知県立中央児童相談所長 山岡 政国
- 12:00～13:00 昼食・休憩
- 13:00～14:30 講演
「地域見守り活動における民生委員児童委員の役割」
ルーテル学院大学 学長 市川 一宏
- 14:30～14:45 共同募金運動について
- 14:45～14:55 大会アピール
アンケート記入
- 14:55～ 閉会式

● 1 趣旨

一昨年の全国大会において、「広げよう地域に根ざした思いやり」をスローガンとして、100周年に向けた活動強化方策が策定され、民生委員・児童委員活動の方向性と取り組むべき内容が示されました。

本年度は、この活動強化方策の着実な実施となる、「地域社会での孤立・孤独をなくす活動」「児童虐待や犯罪被害などから子どもを守る活動」などを通じて、住民が安心して住み続けることのできる地域社会づくりを目指すとともに、県内それぞれの地域における小地域見守り活動の推進や、ブロック・民児協活動の活性化のための諸活動を更に進めていく必要があります。

本大会は関係機関・民間事業者等との連携を深めることによって、新たなネットワークづくりを探り、「ともに支え合う住民活動のしくみづくり」を構築するとともに、地域住民を支援する民生委員児童委員活動の一層の充実を図ることを目的に開催します。

● 2 主催 高知県民生委員児童委員協議会連合会

● 3 後援 高知県・高知県社会福祉協議会・高知県共同募金会

● 4 期日 平成21年5月16日（土）

● 5 会場 高知県立ふくし交流プラザ 2F 多目的ホール
高知市朝倉戊 375-1 TEL 088-844-9054（高知県社協）

● 6 参加者 500名

● 7 日程

- | | |
|-------------|--|
| 9:20～9:55 | 受付 |
| 10:00～10:10 | 開会 |
| | 主催者挨拶 高知県民生委員児童委員協議会連合会会長 |
| 10:10～10:30 | 来賓祝辞 高知県知事 |
| 10:30～10:40 | 来賓祝辞 高知県社会福祉協議会会長 |
| | 来賓祝辞 株式会社サンプラザ |
| 10:40～10:55 | 民生委員児童委員信条朗読
民生委員の歌「花咲く郷土」斉唱 |
| 10:55～11:10 | 共同募金運動について 高知県共同募金会 |
| 11:10～11:25 | 活動発表 |
| | ① 「南国市主任児童委員の活動と実践報告について」（南国市民生児童委員協議会） |
| 11:25～12:00 | 活動発表 |
| | ② 「孝行息子なのです」認知症対応の芝居（高知市北街・南街民生委員児童委員協議会） |
| 12:00～13:00 | 昼食・休憩 |
| 13:00～14:30 | 講演
「地域における新たな支え合いを求めて」
ー住民と行政の協働のあり方と民生委員・児童委員の役割ー
講師：日本社会事業大学 学長 大橋 謙策 氏 |
| 14:30～14:40 | 大会アピール
アンケート記入 |
| 14:40～ | 閉会式 |

●1 趣旨

平成19年度の民生委員制度創設90周年全国大会において、「広げよう地域に根ざした思いやり」をスローガンとして、100周年に向けた活動強化方策が策定され、民生委員・児童委員活動の方向性と取り組むべき内容が示されました。

本年度は、この活動強化方策の着実な実施となる、「地域社会での孤立・孤独をなくす活動」「児童虐待や犯罪被害などから子どもを守る活動」などを通じて、住民が安心して住み続けることのできる地域社会づくりを目指すとともに、県内それぞれの地域における小地域見守り活動の推進や、ブロック・民児協活動の活性化のための諸活動を更に進めていく必要があります。

本大会は関係機関・民間事業者等との連携を深めることによって、地域見守りのネットワークづくりを進め、「ともに支え合う住民活動のしくみづくり」の構築に向けて、地域住民を支援する民生委員児童委員活動の一層の充実を図ることを目的に、第10回目の節目の記念大会として、開催します。

●2 主催

高知県民生委員児童委員協議会連合会

●3 後援

高知県・高知県社会福祉協議会・高知県共同募金会

(協定締結民間事業者：来賓)

○高知新聞販売 高新会・株式会社高知新聞 ○株式会社サンプラザ ○こうち生活協同組合

○高知ヤクルト販売株式会社 ○四国電力株式会社

○JAグループ高知(県下の16農業協同組合・高知県農業協同組合中央会)

●4 期日

平成22年5月12日(水)(全国民生委員の日)

●5 会場

高知県立ふくし交流プラザ 2F 多目的ホール

高知市朝倉戊 375-1 TEL 088-844-9054 (高知県社協)

●6 参加者 500名

●7 大会の日程

- | | |
|-------------|---|
| 9:20～9:55 | 受付 |
| 10:00～10:10 | 開会 |
| | 主催者挨拶 高知県民生委員児童委員協議会連合会会長 |
| 10:10～10:30 | 来賓祝辞 高知県知事 |
| 10:30～10:40 | 来賓祝辞 高知県社会福祉協議会会長 |
| | 来賓祝辞 見守り協定民間事業所代表 株式会社サンプラザ |
| 10:40～10:55 | 民生委員児童委員信条朗読 |
| | 民生委員の歌「花咲く郷土」斉唱 |
| 10:55～11:10 | 共同募金運動について |
| 11:10～11:35 | 活動発表① |
| | [優良民生委員児童委員協議会表彰を受けて] 高知市初月地区民児協 |
| 11:35～12:00 | 活動発表② |
| | [主任児童委員の活動と実践報告] 四万十市中村地区民児協 |
| 12:00～13:00 | 昼食・休憩 |
| 13:00～14:00 | 講演「社会福祉の変遷とこれからの民生委員・児童委員活動」
～民生委員・児童委員活動のあり方を考える～ |
| | 講師：広島文教女子大学教授 蛭江 紀雄 氏 |
| 14:30～14:40 | 大会アピール |
| | アンケート記入 |
| 14:40～ | 閉会式 |